

13

C-0030



0008

秘

接 受	昭 和 十 七 年	七 月 十 日	決 裁	昭 和 十 七 年 七 月 十 日	書 淨	合 校	送 發
起 案	昭 和 十 七 年	七 月 十 日	施 行	昭 和 十 七 年 七 月 十 日	完 結	昭 和 十 七 年	月 日

管行第 134 號

管理局長  行政課長  主任 

事務官  

次官 文書課長

案(航空便) (極神親展)

朝鮮部長

朝鮮總務局長宛

石 務 官

C-0030

0009

兵器補給廠ニ於ケル學生ノ作業奉仕ニ関スル件

陸軍兵器本部ニ於テハ各補給廠ニ於ケル緊急整備

彈藥調製ノ為學生生徒ノ作業奉仕ヲ受ケツツ

アル處貴府管下平壤ニ於ケル補給廠ニ於テモ

左記ニ依リ至急作業奉仕相度度ヒ陸軍省

ヨリ依頼致シタルニ付テハ可也御取計相度也

(起案川紙乙號ノ二)

C-0030

本件ニ関シテハ陸軍省ヨリ親地軍當局
 朝鮮軍ニ対シ貴府
 打合事ヲ連絡致ス趣ニ付御了知相成度
 追而本件ハ防諜上格ニ注意ヲ要スルヲ以テ學生生徒ノ
 人選ニ當リテハ格別ノ御配慮煩度

記

補給敵別 學生所要員數 期 間 備 要

平壤補給廠 三五〇 自七月十日 至八月五日 毎 日
 一可成專門學校以上學生
 ヲ希望シ居ルモ所要人員ノ千係上
 已得ナル場合ハ中等學校上級
 生ヲ配當セシ度旨ノ希望アリ

大日本帝國政府

二九月以降 概木半數
 二上掲所要人員ハ最少限度ヲ示
 セル趣ニ併御令ニ相成度
 三九月以降 安實施期間ニ就テハ
 貴府ト親地軍當局トノ協議ニ依
 ラシテ配當ル意御ナリ

案ノ二

管理局長

陸軍省兵務局長宛

(折上ノ圖定規格四ハニ×ニニニ類)

平壤補給廠ニ於ル學生ノ作業奉仕ニ
関スル件

首類ニ関シ朝鮮總督府學務局長宛別紙ノ通
牒致シタルニ付仰了知相成度

(別紙ハ第一案ヲ以テ上送付ノ事)

別紙添附

大日本帝國政府

(折上り圖定規格「ハニ」ニ準拠)

C-0030

0012

緊急整備彈藥調製ノ爲學生所要人員調査表

補給廠別	學生所要人員	期	間	摘	要
東 補	三〇〇	一、自七月十日 至八月卅一日 毎	日	一、各補給廠ニ於テハ府 縣學務課ト連絡シ學 生ノ作業奉仕ヲ受ケ ソツアリテ概ネ順調 ニ送出サレアルモ中 等學校ノ生徒多キヲ 以テ努メテ専門學校 ノ學生ヲ配當スル如 ク考慮セラレ度希望 ナリ	兵 器 本 部 昭和一六、七、九
南 補	四〇〇				
平 補	三五〇	二、九月以降概ネ 毎	日		
小 補	三〇〇				
廣 補	二五〇	三、自七月十日 至八月卅一日 毎	日		
岡 補	三〇〇				
大 補	一〇〇	四、自七月十日 至八月卅一日 毎	日		
名 補	二五〇				
東 補	三〇〇	五、自七月十日 至八月卅一日 毎	日		
南 補	四〇〇				

兵 器 本 部
昭和一六、七、九

緊急整備彈藥調製ノ爲學生所要人員調査表

補給廠別	學生所要人員	期	間	摘	要
東 補	三〇〇	一、自七月十日 至八月卅一日 毎	日	一、各補給廠ニ於テハ府 縣學務課ト連絡シ學 生ノ作業奉仕ヲ受ケ ソツアリテ概ネ順調 ニ送出サレアルモ中 等學校ノ生徒多キヲ 以テ努メテ専門學校 ノ學生ヲ配當スル如 ク考慮セラレ度希望 ナリ	兵 器 本 部 昭和一六、七、九
南 補	四〇〇				
平 補	三五〇	二、九月以降概ネ 毎	日		
小 補	三〇〇				
廣 補	二五〇	三、自七月十日 至八月卅一日 毎	日		
岡 補	三〇〇				
大 補	一〇〇	四、自七月十日 至八月卅一日 毎	日		
名 補	二五〇				
東 補	三〇〇	五、自七月十日 至八月卅一日 毎	日		
南 補	四〇〇				

兵 器 本 部
昭和一六、七、九

丙

管長三五七号

案起 昭和十九年四月八日

主任

管理局長

事務官

民政課長

案

局長

朝鮮學務局長

瀋陽文教局長

決戰非常措置瀋陽學徒勤勞學徒要綱依此申致

特別學徒勤勞基準一函文件

昭和十九年四月八日

局長

月送受及號局議合									日月付受及號局管主	
第	第	第	第	第	第	第	第	第		
號	號	號	號	號	號	號	號	號		
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受		
月	月	月	月	月	月	月	月	月		
日	日	日	日	日	日	日	日	日		

規格 115

C-0030



日	
第	第
號	號
送	送
受	受
月	月
月	月
日	日
日	日

標記件 一國之文部省に於て別紙ノ通各地方官長
 官廳及同僚長官に於て通牒致すに於て参考
 送及通報云々
 別紙添付

内 務 省

C-0030

0015



大日本帝國政府

發總四〇號

昭和十九年四月五日

內務省管理局長殿

文部省總務局長



決戰非常措置ニ基ク學徒勸自實施要綱ニ依ル
學校種別學徒勸自基準ニ關スル件
今般標記ニ關シ別紙黨ノ通關係學校長並ニ地方長官宛通牒相成タル
ニ付此段及通知
洎テ貴管下關係應ニ對シ右屬知方可然御取計相煩度

發休六八號

昭和十九年三月三十一日

文部次官 菊池豐三郎

直轄 學校長
公立大學高等專門學校長 宛
地方長官

大日本帝國政府

決戰非常措置ニ基ク學徒勸自實施要綱ニヨル
學校種別學徒勸自基準ニ關スル件
苛烈ナル現戰局ニ對處スル爲義ニ決戰非常措置ニ基ク學徒勸自實施要
綱別紙ノ通牒議決定相成タル處之ニ關シ別記ノ通學校別學徒勸自基準
決定相成タルニ付御了知相成度
尙之ガ具體的指導要領及學徒ノ出勤配屬ニ關スル措置等ニ關シテハ決
定次第遂次何分ノ指示有之ベキニ付爲念

2

決戦非常措置ニ基テ學徒動員實施要綱ニ依ル學校別學徒動員基準

第一 大學高等專科

甲 理科系學生生徒

一 工礦關係（理學部物理、化學、地質、礦物、數學等ノ學科ヲ含ム）

1 動員方針及動員期間

イ 第三學年ハ其ノ專攻學科ニ應ジカニ卒業後ノ就職トモ限ミ合セ分散シテ配置スルヲ原則トシ、通年動員スルコト

ロ 第二學年ハ其ノ專攻學科ニ應ジ學校報國隊組織ヲ以テ地域的集團配置スルヲ原則トシ、通年動員スルコト

ハ 第一學年ハ臨時緊急ナリモノニ動員スルコト

2 出動先

イ 軍需ナル工場、事業場及實驗研究施設等

ロ 轉換シタル理科系學校ニシテ工場、事業場等ニ於テ現場實習ヲ實施スルモノニ付テハ原則トシテ當該工場、事業場等

ハ 抗内ニ於テハ技能實習ノ場合ノ外探炭採煤作業、支柱作業等ニハ原則トシテ從事セシメザルコト

ニ 外地外國ニ於ケル工場、事業場等ヘノ動員ハ原則トシテ之ヲ行ハザルモ第三學年ハ軍委託生及滿洲國給費生並ニ特別集團配置ヲ行フベキ特別ノ事情アル第二學年生ニ付テハ此ノ限リニ非ザルコト

3 割當配置

學徒勤勞ニ對スル學徒側ノ需要數ハ厚生省ニ於テ之ヲ取纏ノ關係省ト協議ノ上需要割當ヲ決定シ之ニ對スル學徒ノ出動配屬ニ關スル措置ハ文部省ヨリ行フコトトシ、要スルハ關係省

ト協賛スルコト

二 醫學及齒科醫學

1 動員方針及動員期間

イ 集團配置ヲ原則トスルコト

ロ 第四學年及第三學年ハ通年動員スルヲ原則トシ所定ノ病院等ニ於テ實習勤務ニ服セシムルコト

ハ 第二學年及第一學年ハ臨時緊急ナルモノニ動員スルコト

2 出動先

軍病院、工場、事業場附屬病院、學校附屬病院、綜合病院及醫學關係試驗研究施設等

3 割當配置

文部省ニ於テ陸軍、海軍、厚生各省等ト協議ノ上割當配置ヲ行フコト

三 藥學關係

1 動員方針及動員期間

イ 第三學年ハ通年動員ヲ原則トシ分散又ハ集團配置ヲナスコト

ロ 第一學年ハ集團配置ヲ原則トシ通年動員スルコト

ハ 第一學年ハ臨時緊急ナルモノニ動員スルコト

2 出動先

病院、製藥及化學工場、試驗研究施設

3 割當配置

病院、試驗研究施設、工場、事業場、齒科醫學及齒科醫學ニ準ジ工場、事業場ヘノ動員、工場、事業場ニテ取扱ヒ兩者ノ調整ハ關係

四 農學關係

省ト協議ノ上文部省ニ於テ

1 動員方針及動員期間

- イ 農藝化學科、纖維化學科、製糸科ハ工場關係ニ準ジテ取扱フコト
- ロ 其ノ他ノ者ハ必要ニ應ジ適宜動員スルモ特ニ高學年ニ重點ヲ置クコト

2 出動先

- イ 農藝化學科、纖維化學科、製糸科ハ工場、試験研究施設等
- ロ 其ノ他ノモノハ食糧増産、其ノ他農林、水産業、試験研究施設及國防施設事業等

3 割當配置

- イ 農藝化學科、纖維化學科、製糸科ハ工場關係ニ準ジテ取扱フコト
- ロ 其ノ他ノモノハ文部省ニ於テ關係省ノ要求ヲ勘案シ割當配

置ヲ定ムルコト

五 其ノ他ノ理科關係

1 動員方針及動員期間

- イ 其ノ履修スル學科ノ種別ニ應ジ其ノ専門技能ヲ最モ能率的ニ發揮セシムルヲ目途トシ必要ニ應ジ適宜動員スルコト
- ロ 第三學年及第二學年ハ通年動員スルコト
- ハ 第一學年ハ臨時緊急ナルモノニ動員スルコト

2 出動先

夫々専攻科ノ技能ヲ活用シ得ル如キ場所ニ動員スルコト

3 割當配置

文部省ニ於テ關係省ノ需要數ヲ勘案シ割當及配置ヲ定メ動員スルコト

乙 文科系學生生徒

期前

1 動員方針及動員關係

イ カメテ特能ヲ發揮シ得ル如ク措置スルコト
ロ 食糧増産、國防施設事業、運搬及防空施設事業等ニ對スル
動員ハ必要ニ應ジ適宜動員スルコト

ハ 工場 事業場ニ對スル動員ハ通年動員トシ高學年ヨリ順次
之ヲ行ヒ作業種目等ニ依リ作業効率ヲ低下スルコトナキ場合
ハ循環交替ヲ考慮スルコト

2 出動先

食糧増産、國防施設事業又ハ工場 事業場（輸送ヲ含ム）等ノ
作業ニ動員スルコト 但シ港灣仲仕中仲沖仲仕作業ヲ除クコト

3 割當配置

工場 事業場ニ對スル動員ハ工場關係ニ準ジ其ノ他ニ對スル動
員ハ農藝化學科、纖維化學科製糸科以外ノ農學關係ニ準ジテ取

扱フコト

丙 教員養成諸學校

一 工業關係職業學校教員養成所及青年師範學校ノ工業科ハ大學
專門學校工礦關係ニ準ジテ取扱フコト

二 農業教育專門學校及青年師範學校（工業科ヲ除ク）ハ大學專
門學校農學關係ニ準ジテ取扱フコト

三 其ノ他ノモノハ大學專門學校文科系ニ準ジテ取扱フコト
丁 高等學校（大學豫科ヲ含ム）
大學專門學校文科系ニ準ジテ取扱フコト



第二 中等學校

一 工業學校

1 動員方針及動員期間

イ 其ノ專攻學科ニ應ジ地域的ニ圖配置ヲ限則トスルコト

ロ 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスルモノノ第五、

三學年、國民學校高等科修了程度以テ入學資格トスルモノノ

第三、第二學年ヲ主トシテ原則トシテ通年動員スルコト

ハ 其ノ他ノモノハ臨時緊急ナルモノニ動員スルコト

ニ 學科ノ種類、施設並ニ土地ノ狀況ニヨリ必要ナル場合ハ學校

ヲ工場化シ之ニ動員スルコト

2 出動先

大學專門學校工場關係ニ準ジテ取扱フコト

3 割當配置

厚生省ニ於テ取纏メタル需要數ニ基キ關係省ト協議ノ上産業

別(指定工場、管理工場及第一種工場ハ工場別分類ヲ附ス)

及府縣別 需要割當ヲ決定シ之ニ對スル學徒ノ出動配屬

ニ關スル措置ハ文部省ニ於テ決定ノ上地方縣ニ移讓スルコト

但シ地方縣ニ於テ變更ノ餘地ヲ殘スコト

尙文部省ニ於テ學徒ノ配置原案ヲ作成スル場合ニハ必要ニ應

ジ關係各省ト協議スルコト

二 農業學校

大學專門學校ノ農藝化學科、纖維化學科、製絲科以外ノ農學關係

ニ概ネ準ズルモノ割當配置ハ地方縣ニ於テ行フヲ原則トシ必要ニ應

ジ文部省又ハ地方行政協議會ニ於テ調整スルコト

三 中學校

1 動員方針及動員期間

イ 工場農業場ニ對スル動員ハ通年動員トシ高學年ヨリ順次之ヲ

行
* 作業ノ種目等ニ依リ作業ノ效率ヲ低下スルコトナキ場合ハ補
給交際ヲ考慮ス

国民學校初等科終了程度ヲ以テ入學資格トシ、ハ中學校第一學年及
第二學年ノ生徒ハ土地ノ狀況並ニ心身發達ヲ考慮シ適當ナル作業
ヲ選ビ出勤セシムルコト

2 出勤先

大學專門學校文科系ニ準ジテ取扱フコト

3 割當配置

生徒ノ出勤配屬ニ關スル措置ハ地方廳ニ於テ行フテ原則トシ必要ニ
應ジ文部省又ハ地方行政協議會ニ於テ調整スルコト

四 商業學校

1 動員方針及動員期間出勤先

商業工業學校ニ準ジテ取扱フテ原則トシテ土地ノ狀況等ニ應ジ食糧
増産、國防及防空施設事業等ニモ動員スルコト

2 割當配置

概ネ商業學校ニ準ジテ取扱フコト

第三 女子ノ學校

1 動員方針及動員期間、出勤先

及所及的學校設備ヲ工場化シ且ノ學校ノ生徒ノ之ニ動員スルコト

工場、事業場ニ對スル動員ハ前項ニ依ル動員ノ餘力ニ付通年動員

トシ高學年ヨリ順次之ヲ行ヒ作業種目等ニ依リ作業効率ヲ低下ス

ルコトナキ場合ハ循環交替ヲ考慮スルコト

ハ出勤ハ通勤ヲ立前トスルモ宿舍ノ完備セル場合ニ限り教職員附添

ヒノ上宿泊勤務セシムルコトヲ得ルコト

二國民學校初等科終了程度ヲ以テ入學資格トスル高等女學校ノ第二

學年及第一學年ハ中學校第二學年及第一學年ニ準ジテ取扱フコト

ホ特殊ノ専門的技術ヲ授ケル學校ノ生徒ヲ工場事業場ニ出勤セシメ

ル場合其ノ専攻學科ニ準シテ各項ニ準ジテ取扱フコト

2 割當配價

専門學校程度ノモノノ割當配價ハ文部省ニ於テ其ノ他ノモノノ割當配價ハ地方廳ニ於テ行フヲ原則トシ必要ニ應ジ文部省又ハ地方行政協議會ニ於テ調整スルコト

第四青年學校

晝間通年ノモノニ付テハ夫々學科ノ種別及性別ニ應ジ中等學校ニ準ジテ取扱フコト

第五各種學校

男子各種學校生徒ニ付テハ概ネ工業學校ニ準ジテ取扱フコト
第六國民學校高等科

1 土地ノ狀況並ニ心身ノ発達ヲ考慮シ適當ナル作業ヲ選ビ動員スルコト

2 生徒ノ配價ハ地方廳ニ於テ行フコト

備考

必要ニ應ジ第一種ニ應ジ學校ノ種類程度ニ拘ラズ職員ノ機動性ヲ發揮スルコト

決戦非常措置要綱ニ基ク學徒動員實施要綱 (一九三七)

(閣議決定)

決戦ノ現段階ニ即應シ學徒ノ動員ハ原則トシテ中等學校程度以上ニ付今後一年常時之ヲ勤勞具ノ他非常任務ニ出動セシメ得ル組織的動員ニ置キ左ノ要領ニ依リ必要ニ應ジ隨時活潑ナル動員ヲ實施ス

一 學徒ノ勤勞動員ハ其ノ受入体制ヲ整備スルト共ニ學徒ノ受クル教育ノ種類程度ニ適應セシメ其ノ效率ヲ發揮スルヲ旨トシ概ネ左

ニ依リ之ヲ實施ス但シ必要ニ應ジ機ニ臨ミ他ノ作業ニ從事セシム

イ 國民學校高等科

國民學校高等科兒童ノ動員ニ付テハ土地ノ情況、心身ノ發達ヲ考慮シ適當ナル作業種目ヲ選ビ之ヲ實施ス

ロ 中等學校

(一) 工業學校生徒ハ概ネ軍關係其ノ他重要工場事業場ニ動員ス

(二) 商業學校ヨリ轉換セル工業學校ノ生徒ガ特定工場ニ於テ現場作業ヲ行フ場合又ハ學校ヲ軍需工場化シタル場合ニハ概ネ夫

々當該工場又ハ關係工場ニ動員ス

(三) 農業學校生徒ノ動員ハ食糧増産、國防建設事業等ニ重點ヲ指向ス

國中學校、商業學校及高等女學校生徒ノ動員ハ土地ノ狀況、勤勞需給ノ情況ヲ勘案シ食糧増産、國防建設事業又ハ工場事業場(除テ倉庫等)等ノ作業ニ動員ス

尙女子ノ動員ニ付テハ可及的學校設備ノ工場化ニ依リ勤勞ノ實ヲ擧グル如ク併セ考慮ス

大都市ニ於ケル中學校、商業學校生徒ハ必要ニ應ジ疎開及防空施設事業ニモ之ヲ動員ス

國特ニ第一、二學年生徒ノ動員ニ付テハ國民學校高等科兒童ニ準ズ

大學高等專門諸學校

(一) 理科系學生生徒ニ付テハ左ニ依ル

工學及理學

(1) 工學及理學關係ノ學生生徒ノ勤勞動員ニ關シテハ第三學年及第二學年ニ重點ヲ置クモ必要ニ應ジ低學年ノ學生生徒モ之ヲ關與ス

(2) 現在ノ第三學年ノ學生生徒ハ原則トシテ其ノ履修スル學科ノ種別ニ應ジ最モ適當ナル工場事業場等ニ動員シ其ノ技術的指導面ニ活用スル如ク措置ス

第二學年學生生徒ニ付テモ可及的右ニ準ズ

醫藥學

(1) 醫藥關係學生生徒ノ實習勤務ハ第四學年及第三學年ニ重點ヲ置クモ必要ニ應ジ低學年ノ學生生徒モ之ヲ動員ス

(2) 現在第四學年及第三學年ノ學生生徒ハ軍病院、海軍附屬病院、工場事業場附屬病院、其ノ他一般病院等ニ於テ專ラ實習勤務ニ服セシム

(3) 現在第四學年ノ學生生徒ハ本年七月以降現在第三學年ノ學生生徒ハ明年四月以降夫々軍務其ノ他ノ實務ニ服セシム得ル様措置ス

農學

農業關係ノ學生生徒ノ勤勞動員ハ原則トシテ其ノ履修スル學科ノ種別ニ應ジ其ノ專門ヲ最モ能率的ニ發揮シ得ベキ食糧増産、工場事業場等ニ動員シ時ニ食糧増産作業等ニ付テハ其ノ指導者トシテ活用スル如ク措置ス

(4) 前項以外ノ學生生徒ニ付テハ土地ノ狀況、勤勞需給ノ情况等



労働案シ食糧増産、國防建設事業又ハ工場農業場（兼送子舎ム）等ノ作業ニ動員シ力メテ特能ヲ發揮シ得ル如ク措置ス
大都市ニ於テハ疎開及防空施設事業ニモ之ヲ動員ス

(二) 教員養成諸學校

(1) 工業關係職業學校教員養成所及青年師範學校ノ工業科ノ生徒ニ勵シテハ、(一)ニ準ズ

(2) 高等師範學校、女子高等師範學校、青年師範學校（前項ノモノヲ除ク）臨時教員養成所、職業學校教員養成所及師範學校ノ生徒ニ勵シテハ、(二)ニ準ズ

備考

大學高等專門諸學校理科系生徒ノ動員ニ勵シテハ、特ニ該校教育ト密接ニ連絡セシメ且ツ可及的將來ノ就職配當トモ配當ミ合セ適正ナル計畫配當ヲ考慮ス

二 學生生徒ノ勤勞動員ハ當該學校ノ教職員ヲ中心トシテ學校ヲ基

本トスル隊組織ニ依リ之ヲ行フ

向學徒ノ出勤ニ際シテハ教職員ヲ多數活潑ニ動員シ其ノ指導監督ニ當ラシム

三 學校報國隊ノ整備強化ヲ圖ル

四 學校校舍ノ軍需工場化ニ付テハ各種學校及特ニ女子ノ學校ヲ主流トシテ急速ニ之ガ具體化ヲ圖ル

五 學徒ノ勤勞動員ニ關シ速ニ法令上ノ措置ヲ講ズ

六 曜日ヲ變更シ日曜日ニ於テモ授業ヲ爲シ得ル如ク法令上ノ措置ヲ講ズ

七 教育關係教職員等ニシテ軍需監理官又ハ勞務官ヲ兼任スル者ニ

對シ速カニ必要ナル訓練ヲ行フ

八 學校ノ動員ニ關聯シ軍需、技術要員、科學研究要員タルノ

教育錬成トノ調整ヲ圖ル

九 学徒ノ防空、防衛等ノ非常任務ニ關シ急速ニ動員體制ヲ一層整

備シ之ガ訓練ヲ強化實施ス

十 勤勞従事者中ノ学徒ニ對シテハ當該作業場ノ勤勞者ニ準シ食糧其

他ノ物資ノ配給ヲ行フ如ク考慮ス

大日本帝國政府

管印

昭和十八年二月十八日

(國定規格 公×三毛)

局長

朝鮮學務局長
台灣文教局長

法政學務局長
基ノ學務局長
及學務局長

及學務局長
及學務局長
及學務局長
及學務局長

C-0030

0028

決戦非常措置要綱ニ基ク學徒動員實施要綱（一九三七）
閣議決定

決戦ノ現段階ニ即應シ學徒ノ動員ハ原則トシテ中等學校程度以上ニ付
今後一年常時之ヲ勤勞其ノ他非常任務ニ出勤セシメ得ル組織的態勢ニ
置キ左ノ要領ニ依リ必要ニ應ジ臨時活動ナル動員ヲ實施ス

一 學徒ノ勤勞動員ハ其ノ受入體制ヲ整備スルト共ニ學徒ノ受クル教
育ノ種類程度ニ適應セシメ其ノ效率ヲ發揮スルヲ旨トシ概ネ左ニ依
リ之ヲ實施ス但シ必要ニ應ジ機ニ臨ミ他ノ作業ニ從事セシム

イ 國民學校高等科

國民學校高等科兒童ノ動員ニ付テハ土地ノ情況、身心ノ發達ヲ考
慮シ適當ナル作業種目ヲ選ビ之ヲ實施ス

ロ 中等學校

(一) 工業學校生徒ハ概ネ軍關係其ノ他重要工場專業場ニ動員ス
(二) 商業學校ヨリ轉換セル工業學校ノ生徒ガ特定工場ニ於テ現場
作業ヲ行フ場合又ハ學校ヲ軍需工場化シタル場合ニハ概ネ夫々

當該工場又ハ關係工場ニ動員ス

(三) 農業學校生徒ノ動員ハ食糧増産、國防建設事業等ニ重點ヲ指
向ス

(四) 中學校、商業學校及高等女學校生徒ノ動員ハ土地ノ情況、勤
勞需給ノ情況ヲ勘察シ食糧増産、國防建設事業又ハ工場專業場
（輸送ヲ含ム）等ノ作業ニ動員ス

尙女子ノ動員ニ付テハ可及的學校設備ノ工場化ニ依リ勤勞ノ實
ヲ舉グル如ク併セ考慮ス

大都市ニ於ケル中學校、商業學校生徒ハ必要ニ應ジ疎開及防空
施設事業ニモ之ヲ動員ス

四 特ニ第一、二學年生徒ノ動員ニ付テハ國民學校高等科兒童ニ準
ズ

ハ 大學高等專門諸學校

(一) 理科系學生生徒ニ付テハ左ニ依ル

工學及理學

(1) 工學及理學關係ノ學生生徒ノ勤勞動員ニ關シテハ第三學年及第二學年ニ重點ヲ置クモ必要ニ應ジ低學年ノ學生生徒モ之ヲ動員ス

(2) 現在ノ第三學年ノ學生生徒ハ原則トシテ其ノ履修スル學科ノ種別ニ應ジ最モ適當ナル工場事業場等ニ動員シ其ノ技術的指導面ニ活用スル如ク措置ス

第二學年學生生徒ニ付テモ可及的右ニ準ス

醫學

(1) 醫學關係學生生徒ノ實習勤務ハ第四學年及第三學年ニ重點ヲ置クモ必要ニ應ジ低學年ノ學生生徒モ之ヲ動員ス

(2) 現在第四學年及第三學年ノ學生生徒ハ草病院、學校附屬病院、工場事業場附屬病院、其ノ他一破病院等ニ於テ専ラ實習勤務ニ服レシム

(3) 現在第四學年ノ學生生徒ハ本年七月以降現在第三學年ノ學生生徒ハ明年四月以降夫々軍務其ノ他ノ實務ニ服セシメ得ル様措置ス

農學

農業關係ノ學生生徒ノ勤勞動員ハ原則トシテ其ノ履修スル學科ノ種別ニ應ジ其ノ專門ヲ最モ能率的ニ發揮シ得ベキ食糧増産、工場事業場等ニ動員シ特ニ食糧増産作業等ニ付テハ其ノ指導者トシテ活用スル如ク措置ス

(2) 前項以外ノ學生生徒ニ付テハ土地ノ状況、勤勞需給ノ情况等ヲ勘察シ食糧増産、國防建設等又ハ工場事業場(輸送ヲ含ム)等ノ作業ニ動員シ力メテ特能ヲ發揮シ得ル如ク措置ス

(3) 教員養成諸學校

(1) 工業關係實業學校教員養成所及青年師範學校ノ工業科ノ生

徒ニ關シテハ(一)ニ準ス
(四)高等師範學校、女子高等師範學校、青年師範學校(前項ノモノヲ除ク)臨時教員養成所、實業學校教員養成所及師範學校ノ生徒ニ關シテハ(二)ニ準ス
備考

大學高等專門諸學校理料系生徒ノ動員ニ關シテハ特ニ學校教育ト密接ニ連關セシメ且ツ可及的將來ノ就職配置トモ視ミ合セ適正ナル計畫配置ヲ考慮ス

二 學生生徒ノ勤勞動員ハ當該學校ノ教職員ヲ中心トシテ學校ヲ基本トスル隊組織ニ依リ之ヲ行フ
尙學生ノ出勤ニ際シテハ教職員ヲ多數指撥ニ動員シ其ノ指導監督ニ當ラシム

三 學校報國隊ノ整備強化ヲ圖ル
四 學校校舍ノ軍需工場化ニ付テハ各種學校特ニ女子ノ學校ヲ主流

トシテ急速ニ之ヲ具體化ヲ圖ル

五 學生ノ勤勞動員ニ關シテ速ニ法令上ノ措置ヲ講ス

六 曜日ヲ變更シ日曜日ニ於テモ授業ヲ爲シ得ル如ク法令上ノ措置ヲ講ス

七 教育關係教職員等ニシテ軍需監理官又ハ勞務官ヲ兼任スル者ニ對シ速カニ必要ナル練成ヲ行フ

八 學生ノ動員ニ關聯シ軍需部要員、技術要員、科學研究要員タルノ教育練成トノ調整ヲ圖ル

九 學生ノ防空、防衛等ノ非常任務ニ關シ急速ニ動員體制ヲ一層整備シ之ヲ演練ヲ強化實施ス

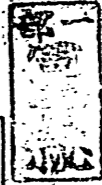
十 勤勞從事中ノ學生ニ對シテハ當該作業場ノ勤勞者ニ準シ食糧其ノ他ノ物資ノ配給ヲ行フ如ク考慮ス

備考
決戦非常措置ノ迅速且ツ強力ナル實施ヲ圖ル爲中央地方ニ巨



リ所要ノ組織編成ヲ爲ス
2 本件實施ニ關シ國民動員ニ關スル全體的計畫ノ一環トシテ學
徒動員ニ付速カニ計畫ヲ定ムルモノトス

大日本帝國政府



一九三五年四月十三日

昭和十九年四月十三日



軍事省 總動員局長

內務省 管理局長

鑛工関係大學専門學校第三學年學生動員
内外地別出動割當ニ関スル件 通知

標記ノ件ニ関シ各廳關係官ト協議ノ結果別紙ノ通決定シタルニ付
此段了知相成度

(印定規格B5(18x25cm))

C-0030



鑛工関係大學專門學校第三學年學徒勤勞動員 昭和十九年四月之日
関係協議決定

内外地別出動割當ニ関スル件

一 學校卒業者使用制限令ノ適用ヲ受ケル昭和十九年度卒業者ノ内外地別割當ハ本件ニ依ル學徒ノ内外地(滿洲支那ヲ含ム)別割當ヲ以テ之ニ代フルコト

二 外地滿洲支那ニ對スル内地ヨリノ動員ハ外地所在ノ理工科系統大學專門學校在學者ノ勤勞動員ガ行ハルベキコトヲ豫定シ不足アルモノニ付テノミ内地ヨリノ動員ヲ圖ルコト

三 外地所在ノ理工科系統大學專門學校在學者ノ勤勞動員ハ原則トシテ左ノ地域ニ動員セラルベキコトヲ豫定スルコト

(一) 關東州所在ノ學校ハ關東州並ニ滿洲地域内

(二) 朝鮮所在ノ學校ハ朝鮮地域内

(三) 臺灣所在ノ學校ハ臺灣地域内

四 本件ニヨル學徒ノ割當ハ卒業後其ノ出動先ニ正式ニ就職シ得ル如ク

大日本帝國政府

處理スルコトニ必要アラバ卒業期マデニ修正ヲ行フコト

五 外地滿洲支那へ出動豫定ノ學徒ニシテ直チニ出動ヲ適當トセザルモノニ付テハ便宜内地ニ於ケル同系會社又ハ關係會社等ニ出動セシムルヲ

六 動員ノ對象トナルベキ工場事業場等ハ最重點工場ニシテ且ツ學徒ノ勤勞官理ニ付遺憾ナキモノヲ選ブコト

七 外地ニ於ケル陸軍省海軍省關係要員ハ内地ノ割當教ニ含マシムルコト但シ陸海兩省ハ外地所在ノ學校ヨリ動員ヲ受ケタル員教ハ内地ノ

割當教ヨリ控除シ外地ノ割當教ニ加フルコト

八 南方關係要員ハ本割當中ニハ特掲セザルニ付之ハ割當ハ各地域別割當數中ヨリ別途處理スルコト

九 外地滿洲支那へノ學徒ノ出動並ニ其ノ勤勞管理ニ関シテハ總テ内地ニ於ケル方針ヲ適用スベキコト

折上り規定規程第一〇二條ニ依ル



學科別	内分	内地	外地	外地内譯					計
				朝鮮	台湾	滿洲	支那	樺太	
大學	機械	774	83	15	3	48	15	2	857
	造船	155	3	9	1	1			158
	航空	259	7	1		6			266
	冶金	249	32	12	2	15	3		281
	電気	479	84	17	5	50	10	2	563
	工業	492	65	25	4	29	5	2	557
	燃料	22	3	1		1	1		25
	火薬	29	3			2		1	32
	探鉱	27							27
	土木	169	63	14	2	17	9	3	125
	建築	169	63	15	5	30	13		232
	織造	307	21	4	1	12	4		328
計	3,042	409	105	23	211	60	10	3,451	
専門学校	機械	4,074	370	77	71	161	56	5	4,464
	造船	116	2	1		1			118
	航空	394	5	1		4			399
	冶金	615	95	43	4	35	13		710
	電気	1,979	373	127	67	139	53	5	2,372
	工業	1,453	231	77	62	66	22	4	1,684
	燃料	27	6	3		2	1		33
	火薬	63	3	1		2			66
	探鉱	889	260	77	7	84	54	14	1,149
	土木	165	251	54	23	130	40	4	1,116
	建築	704	117	25	7	70	13	12	821
	織造	257	4	1		1			261
計	11,436	1,757	529	248	694	252	34	13,193	
合計	14,478	2,166	634	271	905	312	44	16,644	

学 科 別	区 分	朝鮮	台湾	満洲	支那	樺太	計
大 学	機械	3	3	28	15	2	51
	造船	1	1	1			3
	航空	1					1
	冶金	8	2	4	3		17
	電気	9	5	42	10	2	68
	化学	18	4	17	5	2	46
	工業	1		1	1		3
	燃料			2		1	3
	火薬						
	探振	11	2	12	7	3	37
	土木	6	5	30	13		54
	建築	4	1	12	4		21
	繊維						
	計	62	23	149	60	10	304
専 門	機械	51		126	56	5	238
	造船	1	1				2
	航空	1		4			5
	冶金	8	4	35	13		60
	電気	94		97	53	5	249
	化学	54		48	22	4	128
	工業	3		2	1		6
	燃料	1		2			3
	火薬						
	探振		9	64	54	14	141
	土木	36	23	168	40	4	211
	建築	7	7	47	13	2	76
	繊維	1	2	1			4
	計	257	46	534	252	34	1,123
合計	319	69	683	312	44	1,427	

丙

管民五ノ一

案起 昭和十九年五月十九日

施行 昭和十九年五月廿五日

主任

局長

課長

事務官

野

署

月送受及號局議合									日月付受及號局管主	
第	第	第	第	第	第	第	第	第		
號	號	號	號	號	號	號	號	號		
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受		
月	月	月	月	月	月	月	月	月		
日	日	日	日	日	日	日	日	日		
									標記ノ件ニ因リ文部省ニ於テ別紙ニ通	
									學徒勤勞勸員実施要領等ニ因ル件	
									<p>局長</p> <p>事務官</p> <p>主任</p> <p>野</p> <p>署</p>	

規格 B5

C-0030



95.16
内務省管理向

發總二一號

昭和十九年五月十三日

内務省管理局長殿

文部省總務局長



學徒勤勞勸自實施要領等ニ關スル件
今般學徒勤勞勸自實施要領等ニ關シ別紙ノ通夫々通牒(三通)相成タルニ付
貴管下關係方面ニ對シ右周知方可然御取計相成度

C-0030

0030

勅令第一三號

昭和十九年五月四日

文 部 次 官

學徒勤勞員本部 次 長

大國高等專門學校長
教員養成諸學校長

學徒勤勞員實施要領ニ關スル件

現職局ニ鑑ミ、曩ニ決戰非常措置ニ基テ、學徒勤勞員實施要領決定セラレ、茲ニ學徒
盡忠ノ至誠ヲ傾ケテ勤勞報國ニ勤員セラルル事ト相成タルニ付テハ、同要領ニ
依ル學徒勤勞員基準ニ準據シ、且ツ左記要領ニ依リ、學徒勤勞員ノ積極果
敢ニシテ、且有效適切ナル運営ヲ圖リ、學徒タルノ矜持ヲ堅持セシムルト共ニ職

力増強ニ充分ナル效率ヲ發揮セシムル様ニ實施ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度
依命此段及通牒

追而別紙ノ如ク地方長官宛通牒相成タルニ付爲念及送付

記

- 一、學徒勤勞員ハ大東亞戰爭現段階ニ對處シ、刻下緊要ナル生産増強ヲ分擔ス
ルモノニシテ、之ガ運営ノ適否ハ本年度所期生産必遂ヲ左右スルモノナルコ
トヲ充分徹底セシムルコト
- 二、學徒ノ勤勞勤員ハ、學徒ノ教育實踐トシテ行フ勤勞協力ナル理念ニ徹シ、作業
場ヲシテ行居一体ノ道場タラシムルニ力ムルコト
- 三、學徒ノ奉公精神、敬養、規律ニ依リ、作業場ヲ純眞且明朗ナラシムルコト
特ニ受入側ヲシテ、學徒勤勞員ノ勤勞即教育タルノ本義ヲ理解セシメ、受入體制
ノ整備並ニ、學徒勤勞管理ニ遺憾ナカラシムルコト
- 四、學徒勤勞員中成ルベク多數ノ敬職員ヲシテ、率先垂範陣頭措置ニ當ラシメ、以テ
學徒ノ勤勞協力並ニ、訓育ノ徹底ニ萬全ヲ期セシムルコト

五、學徒動員中受入側ヲシテカメテ軍事教育其ノ他ノ時間ヲ設定セシメ學徒ノ教育録成ニ協力セシムルコト

六、學徒ノ体力健康状態等ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ特ニ工場事業場等ニ於テハ保健衛生及救護ニ關シ必要ナル施設ヲ設ケシムルト共ニ環境ノ變化ニ伴フ疲勞

其ノ他心身ノ狀況ニ留意シ疾病事故ノ防止ニ力メシムルコト

七、特ニ工場事業場等ニ於テハ安全教育ノ徹底ヲ期シ災害防止ニ力ムルコト

八、動員學徒疾病又ハ傷害ヲ被リタル場合ニ於テハ治療其ノ他必要ナル措置ヲ

迅速且懇切ニ行ハシムルコト

九、學徒一日ノ勤務時間ハ一般従業員ト同様ニ取扱フヲ原則トスルモ學徒ノ年

齡、性別及作業ノ性質等ヲ勘案シ不宣ニ長時間ニ亘ラシメザルコト

一〇、學徒勤務員ニ依リ生ズル經濟的負擔ハ受入側ニ於テ之ヲ負擔セシメ且協

力ニ付必要ナル物品ハ出來得レバ現物ニヨリ之ヲ支給又ハ貸與セシムル機

構置スルコト

一、學徒勤務ニ對スル報償ハ學徒各人ニ對スル勞務ノ報酬ニ非ズシテ挺身奉公

ノ協同業績ニ對スルモノナルヲ以テ一括報報除隊長ニ之ヲ交付セシムベ

キニ付別途指示ニ基キ經理上遺憾ナカラシムルコト

三、工場事業場ニ於ケル學徒ノ勤務管理ニ關シテハ文部、軍需、厚生等關係各

省緊密ナル連絡ヲ保チ之ヲ指導監督ニ當ルベキヲ以テ學徒側ニ於テモ都道

府縣廳、軍需監視部其ノ他關係機關ト緊密ナル連絡ヲ保チ勤務管理ヲ適正

ナラシムル様配意スルコト

三、學徒動員ノ法的措置ニ就イテハ目下考究中ナルモ差當リ國民勤務報協協力

令ニ依ルモノトシ右ニ依リ得ザルモノニ關シテハ學徒ノ勤務協力ニ關スル

隨時ノ通牒ノ趣旨ニ依ルコト

四、出勤期間中ト雖モ學徒校長學徒動員ノ繼續ヲ不必要ト認ムル場合又ハ其ノ運

營不適當ト認ムル場合ハ其ノ具體的状況ヲ具シ文部省ニ申報スルコト

官總六號

昭和十九年四月二十七日

文 部 次 官

厚 生 次 官

軍 需 次 官

學徒勤勞動員實施要領ニ關スル件

現戦局ニ鑑ミ義ニ決戦非常措置ニ基ク學徒動員實施要綱決定セラレ茲ニ學徒盡忠ノ至誠ヲ傾ケテ勤勞報國ニ動員セラルル事ト相成タルニ付テハ同要綱ニ依ル學徒別學徒動員基準ニ準據シ且ツ左記要領ニ依リ學徒勤勞動員ノ積極果敢ニシテ且有效切ナル運営ヲ圖リ學徒タルノ矜持ヲ堅持セシムルト共ニ戦力増強ニ充分ナル効率ヲ發揮セシムル様ニガ實施ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒

記

一 學徒勤勞動員ハ大東亞戰爭現段階ニ對處シ刻下緊要ナル生産増強ヲ分擔スルモノニシテ之ガ運営ノ適否ハ本年度所期生産必遂ヲ左右スルモノナルコトヲ充分徹底セシムルコト

二 學徒ノ勤勞動員ハ學徒ノ教育實踐トシテ行フ勤勞協力令ナル理念ニ徹シ作業場ヲシテ行學一體ノ道場タラシムルコト

三 學徒ノ奉公精神、敬養、規律ニ依リ作業場ヲ純眞且明朗ナラシムルコト特ニ受入側ヲシテ學徒動員ノ勤勞即教育タルノ本義ヲ理解セシメ受入側ノ整備並ニ學徒勤勞管理ニ遺憾ナカラシムルコト

四 學徒動員中成ルベク多數ノ教員ヲシテ率先垂範頭指揮ニ當ラシメ以テ學徒ノ勤勞協力並ニ訓育ノ徹底ニ萬全ヲ期セシムルコト

五 學徒動員中受入側ヲシテカメテ軍事教育其ノ他ノ時間ヲ設定セシメ學徒ノ教育録成ニ協力セシムルコト

六 學徒ノ體力健康狀態等ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ特ニ工場事業場等ニ於テハ保健衛生及救護ニ關シ必要ナル施設ヲ譯ヤシムルト共ニ環境ノ變化ニ伴フ疲勞其ノ他心身ノ狀況ニ留意シ疾病事故ノ防止ニカメシムルコト

七 特ニ工場事業場等ニ於テハ安全教育ノ徹底ヲ期シ災害防止ニカムルコト

八 勤員學徒疾病又ハ傷害ヲ被リタル場合ニ於テハ治療其ノ他必要ナル措置ヲ迅速且懇切ニ行ハシムルコト

九 學徒一日ノ勤勞時間ハ一般從業員ト同様ニ取扱フヲ原則トスルモ學徒ノ年齢、性別及作業ノ性質等ヲ勘案シ不當ニ長時間ニ亘ラシメザルコト

一〇 學徒勤勞ニ對スル報償ハ學徒各人ニ對スル勤勞ノ報酬ニ非ズシテ挺身奉公ノ協同業績ニ對スルモノナルヲ以テ一括學校報國隊長ニ之ヲ交付セシムルコト

一一 學徒勤勞員ニ依リ生ズル經濟的負擔ハ受入側ニ於テ之ヲ負擔セシメ且協力ニ付必要ナル物品ハ出來得レバ現物ニミリ之ヲ支給又ハ貸與セシムル様措置スルコト

一二 工場事業場ニ於ケル學徒ノ勤勞管理ニ關シテハ文部、軍需、厚生等關係各省緊密ナル連絡ヲ保チ之ヲ指導監督ニ當ルベキヲ以テ地方廳ニ於テモ内政部及警察部其ノ他關係部課協力一致シ之ヲ指導監督ニ當ラシムルハ勿論軍需管理其ノ他關係機關ト緊密ナル連絡ヲ保チ勤勞管理ノ刷新整備ノ指導ニ當ルコト

一三 學徒勤勞員ノ割當配置ハ決戦非常措置ニ基ク學徒勤勞員實施要綱ニ依ル學徒別學徒勤勞員基準ニ依リ處理スベキ地方廳ニ於テ行フ中等學校以下學徒ノ工場事業場別ノ割當學徒勤勞ヲ擔當スル部局出

勤配屬ハ概ネ左記事項考慮ノ上該學徒割當部局ニ於テ處理セシムルコト

イ 學徒勤勞員ノ法的措置ニ就イテハ目下考究中ナルモ差當リ國民勤勞報國協力令ニ依ルモノトシ右ニ依リ得ザルモノニ關シテハ學徒ノ勤勞協力ニ關スル臨時ノ通牒ノ趣旨ニ依ルコト

ロ 學徒ノ出勤配屬ニ當リテハハカメテ、學校ノ程度種別並ニ學科、學年、性別等ニ應ジ其ノ適正ヲ期スルコト特ニ中等學校抵學年生徒國民學校ノ兒童ノ出勤ニ關シテハ當該地域ノ貸借ニ即應シ適切ナル作業ヲ選定スルコト

ハ 成ルベク通勤範圍ノ學校ヲ出勤セシムベキモ當該地方ノ勤勞需給ノ狀況ニ依リ止ムヲ得ザル場合ニハ宿泊施設完備セルモノニ付通勤範圍以外ノ學校ヲ出勤セシメ得ルコト

ニ 同一學校ノ學徒ハ同一場所ニ出勤配屬セシメ止ムヲ得ズ分割配屬ヲ要スル場合ニ於テモ學年、學級ヲ單位トスルコト

一四 地方ノ需給ノ情況ニ依リ當該都道府縣内ノ學徒ノミヲ以テ出勤配屬困難ナル場合、交通機關ノ關係上他道府縣内ノ學徒ヲ出勤セシムルヲ可ト認メタル場合又ハ勤勞ノ程度他地方ト著シク差異アリト認ムル場合ニ於テハ地方長官ハ當該都道府縣ノ屬スル地方行政協議會ニ之ヲ調整ヲ申出ツルコト地方行政協議會ノ所管地域外ノ地域ト調整ヲ必要トスル場合其ノ他特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テ

ハ地方行政協議會長ハ之ガ調整ヲ文部省ニ申出ヅルコト
一五 出勤期間中ト雖キ地方長官暨徒勤員ノ繼續ヲ必要ト認ムル場合又ハ其ノ運営不適當ト認ムル場合
ハ受人側所管官職ト協議ノ上出勤命令ヲ停止スルコトトシ且其ノ旨文部省及厚生省ニ報告スルコト

寫

勅令第一號

昭和十九年五月三日

文部省總務局長印

厚生省勸業局長印

軍需省總動員局長印

地方長官

軍需監理部長

嶺山監督局長

布

工場事業場等學徒勤勞動員受入側措置要綱ニ關スル件

學徒勤勞動員實施要領ニ關シテハ四月二十七日付官總發六號次官范條ヲ以テ指示相成タル處今般工場事業場等學徒勤勞動員受入側措置ニ關

シ別紙ノ如ク要綱決定相成タルニ付之ガ實施ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ
庶此段及通牒候

工場事業等學徒勤勞動員受入側措置要綱
第一 方針

大東亞戰爭決戦ノ現段階ニ鑑ミ決戦非常措置ニ基ク學徒動員實施要綱ニ依リ學徒盡忠ノ至誠ト勤勞即教育ノ本義ニ徹スル學徒勤勞動員ノ積極的ニシテ且有效適切ナル運営ヲ圖ルベキ受入側態勢ヲ確立セシムルモノトス

第二 要領

一 協力申請（請求）

(一) 學校報隊ノ協力申請（請求）ハ富分ノ間國民勤勞報隊協力令ニ基ク協力申請（請求）書ニ依リ大學高等專門學校及師範學校ノ學校報隊ノ出動ニ關シテハ文部大臣及厚生大臣、中等學校以下ノ出動ニ關シテハ地方長官ニ之ヲ爲スコト、國民勤勞報隊協力令ニ依リ得サルモノニ關シテモ之ニ準ズル手續ニ依ルコト學校報隊ノ割當配當ニ關シテハ學校側ノ希望ヲ參酌シテ之ヲ爲スコト

(二) 協力申請（請求）ハ眞ニ必要ナル最少限度トシ且豫メ配當スベキ作業ニ關シテ詳細ナル具體計畫ヲ作成シ置クコト

(三) 通勤シ得ル距離内ノ學校ヨリ協力ヲ受クルコト能ハサル場合ハ宿泊施設ヲ準備シ申請（請求）書ニ其ノ旨ヲ明記スルコト

(四) 協力ヲ受クル隊員數ハ原則トシテ工續關係大專專門學校第三學年以外ハ概ネ學級又ハ學年ニ相當スル程度ノモノヲ單位トスルコト

二 受入準備

(一) 學校報隊ノ動員決定シタルトキハ直ニ學校當局ト緊密ニ事前連絡ヲ行フコト

(二) 職員中學校側トノ連絡者ヲ特定シ置キ學校トノ連絡ニ當ラシムルコト

(三) 事前連絡ヲ要スル事項左ノ如シ

一 作業内容

一 勤勞時間、食事給與其ノ他勤勞條件

一 宿舍ノ狀況、保衛施設等ニ醫療ニ關スル設備
一 其ノ他必要ナル事項

(四) 事前ニ係員ヲ學校ニ派遣シ、教職員ト協力シ出勤スベキ學徒ニ對シ所
要ノ豫備知識ヲ與フルコト尙要スレバ豫備訓練ヲ實施スルコト

(五) 學徒動員受入專任擔當者、作業指導者、作業指導補助者其ノ他ノ係
員ヲ選任スルコト

(六) 一般従業員及作業指導者等ニ對シ豫メ學校報隊協力ノ趣旨ヲ周知
徹底セシメ其ノ取扱處遇ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ苟モ學徒ノ勤勞
ニ挺身セントスル至誠ノ情ヲ冷却セシメ又ハ學徒ノ教育訓練ニ惡影
響ヲ及ボスガ如キコト絕對ナカラシムルコト

三 隊員ノ身分取扱

(一) 將來ノ就職ト睨マ合セ分散シテ配置セラレタル者ハ職員ニ準シ處遇
スルコト

(二) 學校教職員ハ幹部職員ニ準スル等相當ノ處遇ヲ爲スコト

(三) 長期ニ勤員セラル、學徒ハ健康保險ノ被保險者タラシムル様措置ス
ルコト、此ノ場合被保險者ノ負擔スベキ保險料ハ受入側ニ於テ便宜

支拂フコト

教育訓練ニ對スル協力

(一) 受入側ハ常ニ學徒ノ勤勞動員ハ勤勞即教育タルノ本義ヲ理解シ派遣責任教
職員ト協力ノ上學徒ノ教育訓練ニ遺憾ナカラシムルコト

(二) 受入側ハ勤務時間中軍事教育、教授、訓育等ノ爲一週六時間ヲ原則
トスル時間ヲ設クルコト尙作業休憩時間、休日等アラユル時間ヲ活
用スルモノトシ受入側ハ之ニ協力スルコト作業ノ情況ニ應シ前項ノ
時間ハ適宜集約又ハ分散的ニ實施シ得ル様措置シ得ルコト

五 勤勞協力ニ關スル指導監督

(一) 學徒ノ出缺、懈怠、志氣ノ昂揚其ノ他勤勞協力ニ關スル精神指導並
ニ身分上ノ監督ハ派遣責任教職員ヲ行フモノトシ受入側ハ緊密ニ
之ト連絡スルコト

(二) 學徒ノ作業上ノ指導並ニ就業時間、休憩、休日、危害防止等ニ關ス
ル勤勞管理上ノ指導監督ハ豫メ派遣專任教職員ト協議ノ上受入側ニ
於テ定ムル作業指導擔當者ヲ行フコト

(三) 勤勞開始ニ當リテハ作業ノ種類ニ應シ出來得ル限り一定ノ教育訓練

期間ヲ設ケ派遣責任教職員ト一體トナリ作業並ニ勤勞生活ニ慣レシムル様指導ヲ行フコト

六 勤務

- (一) 同一學校報勤隊ノ隊員ハ成ルベク發團シテ同一作業場所ニ於テ作業セシムル様措置ヲ止ムラ得ズ作業場所ヲ分ツ場合ニハ之ニ應ズル部班組織ニ依リ勤務セシムルコト
- 特ニ女子學徒ハ男子從業員又ハ男子學徒ト混在シテ作業セシメザルコト
- (二) 學徒ノ體力、健康状態、熟練度等ヲ考慮シ狀況ニ依リ勤務ノ種類及場所ヲ變更スルコト
- (三) 勤勞者ニ對シテハ特別ノ部班ヲ組織シ適當ナル勤務ニ服セシメ之ガ保育ニ着意シ指導スルコト
- (四) 一日ノ勤勞時間ハ一般從業員ト同等ニ取扱フヲ原則トスルモ十時間(休憩等ノ時間ヲ含ム)以內ヲ原則トシ殘業ヲ課スル場合ト雖モ十ニ時間ヲ越エザルコト尙學徒ノ年齢、性別及作業ノ性質等ニ即應セシムルト共ニ作業ニ慣熟セザル期間ハ適宜短縮スルニト

交通ノ狀況等ヲ勘案シ必要アル場合ハ通勤時間ニ按配ヲ加フルコト

- (五) 交替制ニ依ル深夜(午后十時ヨリ翌朝午前五時ニ至ル間)前業ハ男子ニノミ之ヲ課スルコトヲ得ルモ出勤後二ヶ月間ハ之ヲサシメザルコト
- (六) 女子學徒及中等學校第三學年以下ノ男子學徒ニ對シテハ前號ノ深夜就業及殘業ハ之ヲ課セザルコト

- (七) 休暇ハ一般從業員ト同様トスルモ作業ニ慣熟セザル期間ハ出來得レバ週休トスルコト
- 七 災害ノ防止、疾病ノ豫防並ニ災害疾病ノ措置

- (一) 災害防止設備ヲ完全ナラシメ設備不完全ナルカ又ハ有害有毒ナル場所ニ於テ作業セシメザルコト
- (二) 隊員ノ安全教育ヲ徹底セシムルト共ニ派遣責任教職員ト協力シ災害防止ニ努ムルコト

- (三) 學徒ノ保衛、衛生救護ニ關シ必要ナル施設ヲ整備スルト共ニ常ニ徒ノ疲勞其ノ他心身ノ狀況ニ留意シ疾病事故ノ防止ニ力ムルコト
- (四) 死亡、負傷、疾病等ノ事故ニ對シテハ受入側ニ於テ工場法、労働者災害扶助法等ニ定ムル扶助ヲ爲スコト
- 死亡ノ場合ノ弔慰金ハ別表ノ基準ニ據ルコト
- 前二項ノ扶助等ヲ爲ス場合ニ於テハ弔慰、治療、慰謝其ノ他懇切且精神的ナル配慮ヲ加タルコト
- (五) 隊員ノ死亡其ノ他重大ナル事故ハ直ニ學校、監督官廳及父兄ニ成ルべく詳細ニ報告スルコト
- 八 宿泊其ノ他ノ設備
 - (一) 通勤シ得ザル場合隊員ノ宿泊施設ハ受入側ニ於テ之ヲ爲スコト
 - (二) 宿泊ハ一般従業員ト區別セシメ派遣責任教職員附添ノ上一團トシテ收容セシムルコト、特ニ女子隊員ノ場合ハ必ズ女子専用宿舎ニ收容シ且女子ニ必要ナル施設ヲ整備スルコト

- (三) 學徒ニ對スル宿泊時ノ生活訓練ハ派遣責任教職員之ニ當ルコトトシ受入側ハ之ニ協力スルコト
 - (四) 宿泊中ハ特ニ保衛、衛生、風紀等ニ付萬遺憾ナキ様措置スルコト
 - (五) 宿泊長期ニ亘ル場合ハ教育訓練、修養娛樂休養ノ設備ヲモ備フルコト
 - (六) 便所ハ概ネ左ノ標準ニ依リ之ヲ施設スルコト、特ニ女子隊員ノ場合ハ必ズ女子専用トスルコト
- | | | | |
|-----|-------|-----|---|
| 作業場 | 五〇人ニ付 | 大便所 | 一 |
| | | 小便所 | 二 |
| 宿舎 | 二〇人ニ付 | 大便所 | 一 |
| | | 小便所 | 二 |
- 食事其ノ他ノ給與
- (一) 食糧等ハ一般従業員ト概ネ同様ニ給與致サルベキモ詳細ハ道而農商省ヨリ指示アルベキニ付右ニ依ルコト

□協力ニ付必要ナル作業用品類（作業衣、作業帽、地下足袋、手袋等）ハ出來得レバ現物支給又ハ貸與トシ且一般従業員ト同様ニスルコト

一〇報 償
（一）學徒勤勞ニ對スル報償ハ學校報國隊ノ協同業績ニ對シ納付セラルルモノナルヲ以テ一括學校報國隊ニ納付スルコト

□報償ハ基本報償及特別報償ノ二種トスルコト

（二）基本報償ハ學校ノ程度ニ應シ一定月額トシ作業ノ種類ハ原則トシテ之ヲ考慮セザルコト

基本報償算定基準ハ別表二ニ據ルコト

□特別報償ハ受入側一般従業員ニ對シ殘業手當、深夜就業手當、賞與又ハ臨時ノ給與ヲ支給スル例ニ依リ之ヲ納付スルコト

尙協力終了ノ際ハ勤勞ノ状況、勤勞期間ニ應シ一般従業員ニ準ズル額ヲ納付スルコト

特別報償算定基準ハ別表三ニ據ルコト

（三）受入側ハ毎月一定期日ニ基本及特別報償ノ別ニ依リ明細書を附シ一括學校報國隊長ニ納付スルコト

一、實費辨償

（一）通勤ニ要スル交通費ハ受入側ニ於テ負擔シ成ルベク隊員ニ定期券ヲ購入シ交付スルコト

□宿泊ノ場合學校所在地ト作業地トノ往復旅費（三等料金、要スレバ急行料、辨當料、途中宿泊費）ハ受入側ニ於テ實費ヲ負擔スルコト

但シ辨當料ハ一食ニ付五十錢ヲ標準トスルコト
（二）隊員ノ父母妻子ノ死亡（危篤ノ場合ヲ含ム）ノ際ニ於ケル隊員ノ省ノ場合ハ往復旅費ヲ支給シ隊員ノ危篤又ハ死亡ノ際ニ於ケル家族ノ出頭ノ場合ハ家族二人ヲ限リ往復旅費及必要ナル滞在期間中ノ滞在費ヲ受入側ニ於テ支給スルコト

一、其ノ他

(一) 文部大臣又ハ地方長官必要アリト認ムル場合ハ出勤中ノ學校教職員ノ協力ヲ取消スコトアルベキコト

(二) 隊員ノ養護特ニ疾病傷痍等ニ對スル措置ニ付テハ派遣責任教職員ノ指示ニ從ヒ周到ナル措置ヲ講ズルコト

(三) 女子隊員ニ付テハ女子勤勞者保護ニ關スル諸規定ノ定ムル所ニ依リ

所要ノ措置ヲ講シ萬全ヲ期スルコト

四、學校ニ於テ勤勞協力出勤ニ當リ身體検査ヲ實施スル場合ハ成ルベク

受入側ヨリ隊員等ヲ派遣シ協力スルコト尙勤勞協力期間中ニ於テ

學校側ト一体トナリ定期ニ結核ニ重點ヲ置ク身體検査ヲ實施シ其ノ

結果ニ基ク勤勞養護ノ一体的取扱ノ適正ヲ期スルコト

五、身體検査ノ經費ハ受入側ニ於テ負擔スルコト

六、派遣責任教職員ニ對シテハ交通費、旅費其ノ他必要ナル經費ハ別途

5

別表一

甲 慰金基準

(1) 業務外死亡ノ場合

三〇〇圓

(2) 業務上ノ死亡ノ場合

五〇〇圓

別表二

基本報償算定基準

性別	学校別	一人當り月額(圓)
男子	大學	七〇
	專門學校、高等學校、高等師範學校、大學預科、師範學校(本科)、青年師範學校	六〇
	中等學校第三學年以上又ハ之ニ準ズルモノ	五〇
	師範學校(豫科)	五〇
女子	專門學校、師範學校(本科)、青年師範學校、師範學校(豫科)	五〇
	中等學校(豫科)	四〇

備考 一月ノ中途ニ於ケル出勤若ハ退去又ハ缺勤ニ對シテハ日割計算(一月ヲ三十日ト見做ス)トス
 二 受人働ニ於テ宿舍及食事ヲ供スル場合ハ一般従業員ヨリ徴收スル金額相當額ヲ控除シ算定スルモノトス

別表三

特別報償算定基準

- (一) 夜業ニヨルモノ
 - 一人夜業一時間ニ付基本報償算定基準月額ノ二百分ノ一
- (二) 深夜就業ニヨルモノ
 - 一人一回ニ付一圓
- (三) 賞與又ハ臨時給與
 - 一般従業員支給ノ例ニ依リ算出シタル額
- (四) 協力終了ノ際ニ支拂アモノ
 - 一人ニ付基本報償算定基準月額ノ三分ノ一

動總一四號

昭和十九年五月四日

文部省 總務局長

學徒勤員本部 總務部長

大專高等專門學校長

教員養成諸學校長

殿

工場事業場等學徒勤勞動員受入側措
置要綱ニ關スル件

學徒勤勞動員實施要領ニ關シテハ四月二十七日旨總發六號次官並牒

ヲ以テ指示相成タル處今般工場事業場等學徒勤勞動員受入側措置ニ關シ
別紙ノ如ク要綱決定相成タルニ付之ガ實施ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ
毋此段及請候

追而本件ニ付テハ關係各省ト協裁ノ上決定相成タル次第ニ付爲念

工場事業等學徒勤勞動員受入側措置要綱
第一方 針

大東亞戰爭決戦ノ現段階ニ鑑ミ決戦非常措置ニ基ク學徒動員實施要綱ニ依リ學徒盡忠ノ至誠ト勤勞即教育ノ本義ニ徹スル學徒勤勞動員ノ積極的ニシテ且有效適切ナル運営ヲ圖ルベキ受入側態勢ヲ確立セシムルモノトス

第二 要 領

- 一 協力申請（請求）
 - (一) 學校報國隊ノ協力申請（請求）ハ當分ノ間國民勤勞報國協力令ニ基ク協力申請（請求）書ニ依リ大學高等專門學校及師範學校ノ學校報國隊ノ出動ニ關シテハ文部大臣及厚生大臣、中等學校以下ノ出動ニ關シテハ地方長官ニマテ為スコト、國民勤勞報國協力令ニ依リ得サルモノニ關シテモ之ニ準スル手續ニ依ルコト學校報國隊ノ割當配置ニ關シテハ學校側ノ希望ヲ參酌シテマテ為スコト

- (二) 協力申請（請求）ハ眞ニ必要ナル最少限度トシ且豫メ配置スベキ作業ニ關シテ詳細ナル具體計畫ヲ作成シ置クコト
 - (三) 通勤シ得ル距離内ノ學校ヨリ協力ヲ受タルコト能ハサル場合ハ宿泊施設ヲ準備シ申請（請求）書ニ其ノ旨ヲ明記スルコト
 - (四) 協力ヲ受クル隊員數ハ原則トシテ工續關係大學專門學校第三學年以外ハ概ネ學級又ハ學年ニ相當スル程度ノモノヲ單位トスルコト
- ニ 受入準備
- (一) 學校報國隊ノ動員決定シタルトキハ直ニ學校當局ト緊密ニ事前連絡ヲ行フコト
 - (二) 職員中學校側トノ連絡者ヲ特定シ置キ學校トノ連絡ニ當ラシムルコト
 - (三) 事前連絡ヲ要スル事項左ノ類シ
 - 一 作業内容
 - 一 勤勞時間、食事給與其ノ他勤勞條件

一 宿舍ノ狀況、保衛施設等ニ醫療ニ關スル設備
一 其ノ他必要ナル事項

(四) 事前ニ係員ヲ學校ニ派遣シ、教職員ト協力シ、出動スベキ學生ニ對シ、所
要ノ豫備知識ヲ與アルコト尙要スレバ、豫備訓練ヲ實施スルコト

(五) 學生動員受入專任擔當者、作業指導者、作業指導補助者、其ノ他ノ係
員ヲ選任スルコト

(六) 一般従業員及作業指導者等ニ對シ、豫メ、學校除隊協力ノ趣旨ヲ周知
徹底セシメ、其ノ取扱處遇ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ、荷モ、學生ノ勤勞
ニ挺身セントスル至誠ノ情ヲ冷却セシメ、又ハ、學生ノ教育訓練ニ懸影
響ヲ及ボスガ如キコト絕對ナカラシムルコト

三 隊員ノ身分取扱

(一) 將來ノ就職ト睨メ、合セ分散シテ配置セラレタル者ハ、隊員ニ進シ、處遇
スルコト

(二) 學校教職員ハ、幹部職員ニ準ズル等相當ノ處遇ヲ爲スコト

(三) 長期ニ動員セラル、學生ハ、健康保險ノ被保險者タラシムル様措置ス
ルコト、此ノ場合被保險者ノ負擔スベキ保険料ハ、受入側ニ於テ便宜

支拂フコト

教育訓練ニ對スル協力

(一) 受入側ハ、常ニ學生ノ勤勞動員ハ、勤勞即教育タルヲ本義ヲ理解シ、派遣責任、教
職員ト協力ノ上、學生ノ教育訓練ニ遺憾ナカラシムルコト

(二) 受入側ハ、勤務時間中、軍事教育、教授、訓育等ノ爲、一週六時間ヲ原則
トスル時間ヲ設クルコト、尙作業休憩時間、休日等アラユル時間ヲ活
用スルモノトシ、受入側ハ、之ニ協力スルコト、作業ノ情況ニ應ジ、前項ノ
時間ハ、適宜集約又ハ分散的ニ實施シ、得ル様措置シ、得ルコト

五 勤勞協力ニ關スル指導監督

(一) 學生ノ出缺、勤怠、志氣ノ昂揚、其ノ他勤勞協力ニ關スル精神指導並
ニ身分上ノ監督ハ、派遣責任、教職員之ヲ行フモノトシ、受入側ハ、緊密ニ
之ト連絡スルコト

(二) 學生ノ作業上ノ指導並ニ就業時間、休憩、休日、危害防止等ニ關ス
ル勤勞管理上ノ指導監督ハ、豫メ派遣專任、教職員ト協議ノ上、受入側ニ
於テ定ムル作業指導擔當者之ヲ行フコト

(三) 勤勞開始ニ當リテハ、作業ノ種類、順序、日來得ル限り一定ノ教育訓練

六 勤務

期間ヲ設ケ派遣責任教職員ト一體トナリ作業並ニ勤勞生活ニ慣レシムル様指導ヲ行フコト

(一) 同一學夜報國隊ノ隊員ハ成ルベク參團シテ同一作業場所ニ於テ作業セシムル様指導シ止ムヲ得ズ作業場所ヲ分ツ場合ニハ之ニ應ズル部班組織ニ依リ勤務セシムルコト
特ニ女子學徒ハ男子從業員又ハ男子學徒ト混在シテ作業セシメザルコト

(二) 學徒ノ體力、健康狀態、熱線度等ヲ考慮シ狀況ニ依リ勤務ノ種類及場所ヲ變更スルコト

(三) 勤務者ニ對シテハ特別ノ部班ヲ組織シ適當ナル勤務ニ服セシメ之ガ保育ニ着意シ指導スルコト

(四) 一日ノ勤務時間ハ一般從業員ト同クニ取扱フヲ原則トスルモ十時間(休憩等ノ時間ヲ含ム)以內ヲ原則トシ從業員課スル場合ト雖モ十ニ時間ヲ越エザルコト尙記徒ノ年齢、性別及作業ノ性質等ニ即應セシムルト共ニ作業ニ慣熟セザル期間ハ適當短縮スルコト

交通ノ狀況等ヲ勘案シ必要アル場合ハ通勤時間ニ按配ヲ加フルコト

(五) 交替制ニ依ル深夜(午後十時ヨリ翌朝午前五時ニ至ル間)就業ハ男子ニノミ之ヲ課スルコトヲ得ルモ出勤後二ヶ月間ハ之ヲナサシメザルコト

(六) 女子學徒及中等學校第三學年以下ノ男子學徒ニ對シテハ前號ノ深夜就業及殘業ハ之ヲ課セザルコト

(七) 休暇ハ一般從業員ト同様トスルモ作業ニ慣熟セザル期間ハ出來得レバ週休トスルコト

七 災害ノ防止、疾病ノ豫防並ニ災害疾病ノ措置

(一) 災害防止設備ヲ完全ナラシメ設備不完全ナルカ又ハ有害有毒ナル場所ニ於テ作業セシメザルコト

(二) 隊員ノ安全教育ヲ徹底セシムルト共ニ派遣責任教職員ト協力シ災害防止ニ勞ムルコト

(三) 暴徒ノ保衛、衛生救護ニ關シ必要ナル施設ヲ整備スルト共ニ常ニ暴徒ノ疲勞其ノ他心身ノ狀況ニ留意シ疾病事故ノ防止ニ力ムルコト

(四) 死亡、負傷、疾病等ノ事故ニ對シテハ受入側ニ於テ工場法、労働者災害扶助法等ニ定ムル扶助ヲ爲スコト

死亡ノ場合ノ弔慰金ハ別表ノ基準ニ據ルコト

前二項ノ扶助等ヲ爲ス場合ニ於テハ弔慰、治療、慰謝其ノ他懇切且精神的ナル配慮ヲ加テルコト

(五) 隊員ノ死亡其ノ他重大ナル事故ハ直ニ墨校、監督官廳及父兄ニ成ルベク詳細ニ報告スルコト

八 宿泊其ノ他ノ設備

(一) 通勤シ得サル場合隊員ノ宿泊施設ハ受入側ニ於テ之ヲ爲スコト

(二) 宿泊ハ一般従業員ト區別セシメ派遣責任教職員附添ノ上一回トシテ收容セシムルコト、特ニ女子隊員ノ場合ハ必ズ女子専用宿舎ニ收容シ且女子ニ必要ナル施設ヲ整備スルコト

(三) 暴徒ニ對スル宿泊時ノ生活訓練ハ派遣責任教職員之ニ當ルコトトシ受入側ハ之ニ協力スルコト

(四) 宿泊中ハ特ニ保衛、衛生、風紀等ニ付萬遺憾ナキ様措置スルコト

(五) 宿泊長期ニ亘ル場合ハ教育訓練、修養娛樂休養ノ設備ヲモ備フルコト

(六) 便所ハ概ネ左ノ標準ニ依リ之ヲ施設スルコト、特ニ女子隊員ノ場合ハ必ズ女子専用トスルコト

作業場	五〇人ニ付	大便所	一
宿舎	二〇人ニ付	大便所	二
		小便所	二
		小便所	一
		男子	女子

九 食事其ノ他ノ給與

(一) 食糧等ハ一般従業員ト概ネ同様ニ給與致サルベキヲ詳細ハ進而農商省ヨリ指示アルベキニ付右ニ依ルコト

□協力ニ付必要ナル作業用品類（作業衣、作業帽、地下足袋、手袋等）ハ出來得レバ現物支給又ハ貸與トシ且一般従業員ト同様ニスルコト

一〇報償

（一）學徒勤勞ニ對スル報償ハ學校報國隊ノ協同業績ニ對シ納付セララルモノナルヲ以テ一括學校報國隊ニ納付スルコト

（二）報償ハ基本報償及特別報償ノ二種トスルコト

（三）基本報償ハ學校ノ程度ニ應ジテ定月額トシ作業ノ種類ハ原則トシテ之ヲ考慮セザルコト

基本報償算定基準ハ別表ニ示スルコト

（四）特別報償ハ受入側一従業員ニ對シ、夜勤手當、深夜就業手當、買戻又ハ臨時ノ給與ヲ支給スル例ニ依リ之ヲ納付スルコト

尚、協力が終了ノ際ハ勤勞ノ状況、勤勞期間ニ應ジテ一般従業員ニ準ズル額ヲ納付スルコト

特別報償算定基準ハ別表ニ示スルコト

（五）受入側ハ毎月一定期日ニ基本及特別報償ノ別ニ依リ明細書ヲ附シ一括學校報國隊長ニ納付スルコト

一一 實費報償

（一）通勤ニ要スル交通費ハ受入側ニ於テ負擔シ成ルベク隊員ニ定期券ヲ購入シ交付スルコト

（二）宿泊ノ場合學校所在地ト作業地トノ往復旅費（三等料金、典スレバ急行料、辨當料、途中宿泊費）ハ受入側ニ於テ實費ヲ負擔スルコト

但シ、給食料ハ一食ニ付五十圓ヲ標準トスルコト

（三）隊員ノ父母妻子ノ死亡ハ危篤ノ場合ヲ含ムノ際ニ於ケル隊員ノ省ノ場合ハ往復旅費ヲ支給シ隊員ノ危篤又ハ死亡ノ際ニ於ケル家族ノ出頭ノ場合ハ家族二人ヲ限リ往復旅費及必要ナル滞在期間中ノ滞在費ヲ受入側ニ於テ支給スルコト

一三其ノ他

(一) 文部大臣又ハ地方長官必要アリト認ムル場合ハ出動中ノ學校教員ノ協力ヲ取消スコトアルベキコト

(二) 隊員ノ養護特ニ疾病傷痍等ニ對スル措置ニ付テハ派遣責任教員ノ指示ニ從ヒ周到ナル措置ヲ講ズルコト

(三) 女子隊員ニ付テハ女子勤勞者保護ニ關スル諸規定ノ定ムル所ニ依リ所要ノ措置ヲ講シ萬全ヲ期スルコト

同學校ニ於テ勤勞協力出動ニ當リ身體検査ヲ實施スル場合ハ成ルベク受入側ヨリ隊員等ヲ派遣シ協力スルコト尙勤勞協力期間中ニ於テハ學校側ト一体トナリ定期ニ結核ニ重點ヲ置ク身體検査ヲ實施シ其ノ結果ニ基ク勤勞養護ノ一体的取扱ノ適正ヲ期スルコト

身體検査ノ經費ハ受入側ニ於テ負擔スルコト
(四) 派遣責任教員ニ對シテハ交通費、旅費其ノ他必要ナル經費ハ別ニ指示ニ從ヒ受入側ニ於テ負擔シ別途支辨スルコト

別表

弔慰金基準

- (1) 業務外死亡ノ場合 三〇〇圓
- (2) 業務上ノ死亡ノ場合 五〇〇圓



別表 二

基本報償算定基準

性別	學校別	一人當リ月額(圓)
男子	大學	七〇
	專門學校、高等學校、高等師範學校、大學豫科、師範學校(本科)、青年師範學校	六〇
	中等學校第三學年以上又ハ之ニ準ズルモノ	五〇
	師範學校(豫科)	五〇
	專門學校、師範學校(本科)、青年師範學校、師範學校(豫科)	五〇
女子	中等學校又ハ之ニ準ズルモノ	四〇
	專門學校、師範學校(本科)、青年師範學校、師範學校(豫科)	五〇

備考 一、月ノ中途ニ於ケル出勤若ハ退去又ハ缺勤ニ對シテハ日割計算(一月ヲ三十日ト見做ス)トス
 二、受入側ニ於テ宿舍及食學ヲ供スル場合ハ一般従業員ヨリ徴收スル金額相當額ヲ控除シ算定スルモノトス

別表 三

特別報償算定基準

- (一) 夜業ニヨルモノ
 一人夜業一時間ニ付基本報償算定基準月額ノ二百分ノ一
- (二) 深夜就業ニヨルモノ
 一人一回ニ付一圓
- (三) 賞與又ハ臨時給與
 一般従業員支給ノ例ニ依リ算出シタル額
- (四) 協力終了ノ際ニ支拂フモノ
 一人ニ付基本報償算定基準月額ノ三分ノ一



勅令第一三號

昭和十九年五月四日

文部大臣官

學徒動員本部次長

大國高等專門學校校長
教員養成諸學校校長 殿

學徒動員實施要領ニ關スル件

現戦局ニ鑑ミ曩ニ決戦非常措置ニ基テ學徒動員實施要綱決定セラレ茲ニ學徒
盡忠ノ至誠ヲ傾ケテ勤勞報國ニ動員セララル事ト相成タルニ付テハ同要綱ニ
依ル學校別學徒動員基準ニ準據シ且ツ左記要領ニ依リ學徒動員ノ積極果
敢ニシテ且有效適切ナル運営ヲ圖リ學徒タルノ矜持ヲ堅持セシムルト共ニ戰

力増強ニ充分ナル効率ヲ發揮セシムル様ニガ實施ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度
依命此段及通牒

記

- 一 學徒勤勞動員ハ大東亞戰爭現段階ニ對處シ刻下緊要ナル生産増強ヲ分擔ス
ルモノニシテ之ガ運営ノ適否ハ本年度所期生産必遂ヲ左右スルモノナルコ
トヲ充分徹底セシムルコト
- 二 學徒ノ勤勞動員ハ學徒ノ教育實踐トシテ行フ勤勞協力ナル理念ニ徹シ作業
場ヲシテ行學一体ノ道場タラシムルニ力ムルコト
- 三 學徒ノ奉公精神、敬養、規律ニ依リ作業場ヲ純眞且明朗ナラシムルコト
特ニ受入側ヲシテ學徒動員ノ勤勞即教育タルノ本義ヲ理解セシメ受入體制
ノ整備並ニ學徒勤勞管理ニ遺憾ナカラシムルコト
- 四 學徒動員中成ルベク多數ノ教職員ヲシテ率先垂範陣頭措置ニ當ラシメ以テ
學徒ノ勤勞協力並ニ訓育ノ徹底ニ萬全ヲ期セシムルコト

五 學徒動員中受人側ヲシテカメテ軍事教育其ノ他ノ時間ヲ設定セシメ學徒ノ教育録成ニ協力セシムルコト

六 學徒ノ体力健康状態等ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ特ニ工場事業場等ニ於テハ保健衛生及救護ニ關シ必要ナル施設ヲ設ケシムルト共ニ環境ノ變化ニ伴フ疲勞其ノ他心身ノ狀況ニ留意シ疾病事故ノ防止ニカメシムルコト

七 特ニ工場事業場等ニ於テハ安全教育ノ徹底ヲ期シ災害防止ニカムルコト

八 動員學徒疾病又ハ傷害ヲ被リタル場合ニ於テハ治療其ノ他必要ナル措置ヲ敏速且懇切ニ行ハシムルコト

九 學徒一日ノ勤勞時間ハ一般從業員ト同様ニ取扱フヲ原則トスルモ學徒ノ年齡、性別及作業ノ性質等ヲ勘案シ不當ニ長時間ニ亘ラシメザルコト

一〇 學徒勤勞動員ニ依リ生ズル經濟的負擔ハ受人側ニ於テ之ヲ負擔セシメ且協力ニ付必要ナル物品ハ出來得レバ現物ニヨリ之ヲ支給又ハ貸與セシムル等措置スルコト

一一 學徒勤勞ニ對スル報償ハ學徒各人ニ對スル勞務ノ報酬ニ非ズシテ挺身奉公ノ協同業績ニ對スルモノナルヲ以テ一括學徒報勵隊長ニ之ヲ交付セシムベキニ付別途指示ニ基キ經理上遺憾ナガラシムルコト

一二 工場事業場ニ於ケル學徒ノ勤勞管理ニ關シテハ文部、軍需、厚生等關係各省緊密ナル聯繫ヲ保チ之ヲ指導監督ニ當ルベキヲ以テ學徒側ニ於テモ都道府縣廳、軍需監理部其ノ他關係機關ト緊密ナル聯繫ヲ保チ勤勞管理ヲ適正ナラシムル様配慮スルコト

一三 學徒動員ノ法的措置ニ就イテハ目下考究中ナルモ差當リ國民勤勞報勵協力令ニ依ルモノトシ右ニ依リ得ザルモノニ關シテハ學徒ノ勤勞協力ニ關スル隨時ノ通牒ノ趣旨ニ依ルコト

一四 出勤期間中ト雖モ學徒校長學徒動員ノ繼續ヲ不必要ト認ムル場合又ハ其ノ運営不適當ト認ムル場合ハ其ノ具體的状況ヲ具シ文部省ニ申報スルコト

官總六號

昭和十九年四月二十七日

文 部 次 官

厚 生 次 官

軍 需 次 官

學徒勤勞動員實施要領ニ關スル件

現戦局ニ鑑ミ、曩ニ決戦非常措置ニ基ク、學徒勤勞動員實施要綱決定セラレ、茲ニ學徒盡忠ノ至誠ヲ傾ケテ勤勞報國ニ動員セラルル事ト相成タルニ付テハ、同要綱ニ依ル學徒別區區徒動員基準ニ準據シ、且ツ左記要領ニ依リ、學徒勤勞動員ノ積極果敢ニシテ、且有效切ナル運営ヲ圖リ、學徒タルノ矜持ヲ堅持セシムルト共ニ、戦力増強ニ充分ナル効率ヲ發揮セシムル様ニカ實施ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ、度依命此段及通牒

記

一、學徒勤勞動員ハ大東亞戦争現段階ニ對處シ、刻下緊要ナル生産増強ヲ分擔スルモノニシテ、之ガ運営ノ適否ハ本年度所期生産必遂ヲ左右スルモノナリトシテ、充分徹底セシムルコト

二、學徒ノ勤勞動員ハ學徒ノ教育實踐トシテ行フ勤勞協力令ナル理念ニ徹シ、作業場ヲシテ行學一體ノ道場タラシムルコト

三、學徒ノ奉公精神、敬養、規律ニ依リ、作業場ヲ純眞且明朗ナラシムルコト、特ニ受入側ヲシテ、學徒動員ノ勤勞即教育タルノ本義ヲ理解セシメ、受入側ノ整備並ニ學徒勤勞管理ニ遺憾ナカラシムルコト

四、學徒動員中成ルベク多数ノ敬職員ヲシテ、率先垂範、頭指揮ニ當ラシメ、以テ學徒ノ勤勞協力並ニ教育ノ徹底ニ萬全ヲ期セシムルコト

五、學徒動員中受入側ヲシテ、力メテ軍事教育其ノ他ノ時間ヲ設定セシメ、學徒ノ教育鍊成ニ協力セシムルコト

六、學徒ノ體力健康状態等ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ、特ニ工場事業場等ニ於テハ、保健衛生及救護ニ關シ必要ナル施設ヲ講ゼシムルト共ニ、環境ノ變化ニ伴フ疲勞其ノ他、心身ノ狀況ニ留意シ、疾病事故ノ防止ニ力メシムルコト

七、特ニ工場事業場等ニ於テハ、安全教育ノ徹底ヲ期シ、災害防止ニ力ムルコト

八 勤員學徒疾病又ハ傷害ヲ被リタル場合ニ於テハ治療其ノ他必要ナル措置ヲ迅速且懇切ニ行ハシムルコト

九 學徒一日ノ勤勞時間ハ一般従業員ト同様ニ取扱フヲ原則トスルモ學徒ノ年齢、性別及作業ノ性質等ヲ勘案シ不當ニ長時間ニ亘ラシムザルコト

一〇 學徒勤勞ニ對スル報償ハ學徒各人ニ對スル勞務ノ報酬ニ非ズシテ挺身奉公ノ協同業績ニ對スルモノナルヲ以テ一括學校報國隊長ニ之ヲ交付セシムルコト

一一 學徒勤勞員ニ依リ生ズル經濟的負擔ハ受人側ニ於テ之ヲ負擔セシメ且協力ニ付必要ナル物品ハ出來得レバ現物ニヨリテ之ヲ支給又ハ貸與セシムル様措置スルコト

一二 工場事業場ニ於ケル學徒ノ勤勞管理ニ關シテハ文部、軍需、厚生等關係各省緊密ナル連絡ヲ保チ之ガ指導監督ニ當ルベキヲ以テ地方廳ニ於テモ内政部及警察部其ノ他關係部課協力一致シ之ガ指導監督ニ當ラシムルハ勿論軍需管理部門ノ他關係機關ト緊密ナル連絡ヲ保チ勤勞管理ノ制新整備ノ指導ニ當ルコト

一三 學徒勤勞員ノ割當配置ハ決戦非常措置ニ基ク學徒勤勞員實施要綱ニ依ル學徒勤勞員基準ニ依リ處理スベキ地方廳ニ於テ行フ中等學校以下學徒ノ工場事業場別ノ割當事務ハ勤勞ヲ適當スル部局出

勤配屬ハ概ネ左記事項考慮ノ上致學關係適當部局ニ於テ處理セシムルコト

イ 學徒勤勞員ノ法的措置ニ就イテハ且下考中テルモ差當リ國民勤勞報國協力令ニ依ルモノトシ右ニ依リ得ザルモノニ關シテハ學徒ノ勤勞協力ニ關スル臨時ノ通牒ノ趣旨ニ依ルコト

ロ 學徒ノ出勤配屬ニ當リテハカメテ學校ノ程度種別並ニ學科、學年、性別等ニ應ジ其ノ適正ヲ期スルコト特ニ中等學校抵學年生徒國民學校ノ兒童ノ出勤ニ關シテハ當該地域ノ貸借ニ即應シ適切ナル作業ヲ選定スルコト

ハ 成ルベク通勤範圍ノ學徒ヲ出勤セシムベキモ當該地方ノ勤勞需給ノ狀況ニ依リ止ムヲ得ザル場合

ニハ宿泊施設完備セルモノニ付通勤範圍以外ノ學徒ヲ出勤セシム得ルコト

ニ 同一學校ノ學徒ハ同一場所ニ出勤配屬セシメ止ムヲ得ズ分割配屬ヲ要スル場合ニ於テモ四年、學級ヲ單位トスルコト

一四 地方ノ需給ノ情況ニ依リ當該都道府縣内ノ學徒ノミヲ以テ出勤配屬困難ナル場合、交通機關ノ關係上他道府縣内ノ學徒ヲ出勤セシムルヲ可ト認メタル場合又ハ勤勞ノ程度他地方ト甚シク差異アリト認ムル場合ニ於テハ地方長官ハ當該都道府縣ノ屬スル地方行政協議會ニ之ガ調整ヲ申出ヅルコト地方行政協議會ノ所管地域外ノ地域ト調整ヲ必要トスル場合其ノ他特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テ

ハ地方行政協議會長ハ之ヲ調整ヲ文部省ニ申出ツルコト
一五 出勤期間中下雖キ地方官學徒勤員ノ繼續ヲ不必要ト認ムル場合又ハ其ノ運営不適當ト認ムル場合
ハ受入側所管官廳下協議ノ上出勤命令ヲ停止スルコトトシ且其ノ旨文部省及厚生省ニ報告スルコト

丙

施行 昭和十九年十一月廿七日

案起 昭和十九年十一月二十三日

主任

管理局長 事務官

民政課長

案

局長

朝鮮學務局長
台灣文教科局長

常務勤勞指導員

標記ノ件ニ關シ今般文部ニ於テ別紙ノ通達

合議局號及受送月									主管局號及付日	
第	第	第	第	第	第	第	第	第	（一〇五九号）	
號	號	號	號	號	號	號	號	號	1059	
送	送	送	送	送	送	送	送	送		
月	月	月	月	月	月	月	月	月		
日	日	日	日	日	日	日	日	日		

規格 115

C-0030

0066

日	
第	第
號	號
送	送
受	受
月	月
月	月
日	日
日	日

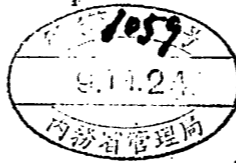
相
 或
 修
 條
 紙
 券
 不
 道

別
 紙
 付
 留

C-0030

0030

大日本帝國政府



發體二〇七號

昭和十九年十一月十五日

文部省體育局長 柴 沼

内務省監理局長殿

學徒勤勞體操ニ關スル件

今般本省ニ於テ學徒動員間ニ於ケル學徒ノ健康ノ保持増進並作業能率ノ
向上ヲ期スル爲「學徒勤勞體操」ヲ制定シ別紙ノ通通牒致シタルニ付右
參考迄ニ御送附ニ及ブ



C-0030

0068



發給二〇七號

昭和十九年十一月十五日

文部省體育局長 柴 沼

直

公立六所高等專門學校校長

學生勤勞體操ニ關スル件

學生勤勞體操ノ強化ニ件ト勤員間適切ナル體操ヲ實施シ學生ノ體力ノ
増進ヲ圖ルハ喫緊ノ要務タルヲ以テ今般左記ノ第一區「學生勤勞體操」ヲ
制定致シタルニ付自今之ガ適切ナル實施ニ依リ學生ノ健康ヲ保持増進
シ作業能率ノ向上ヲ期スル務致サレ度此段依命及通牒
尙本體操ノ實施ハ事情ノ許ス限リ學校教練、體育訓練ニ努ム」ヘキ從
來ノ方針ニ何等變更ヲ加フルモノニアラザルニ付キ爲念

1057

學子徒勤勞體操

一趣旨

本體操ハ作業ノ準備作業ニ依ル疲勞ヲ回復スルニ固癖ノ矯正ヲ圖リ姿勢ヲ正シ以テ作業能率ノ向上ト健康ノ保持増進ニ資スルモノトス

二教授

(其ノ一)

順序	運動	目的	方法	注意
一	体ノ上伸	姿勢ヲ調整ス	一 膝ヲ屈シ、 二 膝ヲ伸ス	一 調子ヨク伸ビク行フコト 二 膝ニ当テタルヲ行フコト 三 足ニ平行ニ約長開ク可トス 四 屈膝度ハ適宜定ムルコト
二	脚ノ屈伸	脚部諸筋ヲ修練ス	一 膝ヲ屈シ、 二 膝ヲ伸ス	一 脚ニテ行フコト 二 膝ニ當テタルヲ行フコト 三 足ニ平行ニ約長開ク可トス 四 屈膝度ハ適宜定ムルコト
三	臂前後迴旋	肩關節ヲ柔軟ニシ姿勢ヲ正ス	一 臂ヲ前ヨリ迴ス 二 臂ヲ後ヨリ迴ス 三 臂ヲ側ヨリ迴ス 四 臂ヲ側ニ二回開ク	一 迴旋及側開ハ別々ニ行フ可 二 緩徐ニ行ヒ後屈カカテ行フコト
四	胸ノ後屈	胸椎ヲ伸展シ、姿勢ヲ正ス	一 臂ヲ上ヨリ伸テ胸ヲ後ニ屈ス 二 臂ヲ下シ胸ヲ起ス	一 緩徐ニ行ヒ後屈カカテ行フコト

五	体ノ側屈	体側諸筋ヲ修練ス	一 右手ヲ指上ニシテ体ヲ左ニ屈ス 二 左手ヲ指上ニシテ体ヲ右ニ屈ス 三 臂ヲ上ニシテ及動的ニ前ニ屈ス 四 体ヲ起ス 五 手ヲ腰ニ當テテ後ニ屈ス 六 臂ヲ下ス	一 脚ニテ行フコト 二 膝ニ當テタルヲ行フコト 三 足ニ平行ニ約長開ク可トス 四 屈膝度ハ適宜定ムルコト
六	体前後屈	背腹部諸筋ヲ修練ス	一 体ヲ左ヨリ迴ス 二 体ヲ右ヨリ迴ス	一 脚ニテ行フコト 二 膝ニ當テタルヲ行フコト 三 足ニ平行ニ約長開ク可トス 四 屈膝度ハ適宜定ムルコト
七	体ノ迴旋	胴体諸筋ヲ修練ス	一 体ヲ左ヨリ迴ス 二 体ヲ右ヨリ迴ス	一 脚ニテ行フコト 二 膝ニ當テタルヲ行フコト 三 足ニ平行ニ約長開ク可トス 四 屈膝度ハ適宜定ムルコト
八	臂ノ前振 拳踵屈膝	脚部諸筋ヲ修練シ呼吸ヲ調整ス	一 臂ヲ前ヨリ伸テ拳ヲ伸ス 二 臂ヲ前ヨリ伸テ膝ヲ伸ス 三 臂ヲ前ヨリ伸テ踵ヲ伸ス 四 臂ヲ前ヨリ伸テ踵ヲ伸ス	一 脚ニテ行フコト 二 膝ニ當テタルヲ行フコト 三 足ニ平行ニ約長開ク可トス 四 屈膝度ハ適宜定ムルコト
九	臂ノ側下 掌外反胸後屈	呼吸ヲ整ヘ姿勢ヲ正ス	一 臂ヲ側ヨリ伸テ胸ヲ後ニ屈ス 二 掌ヲ外反シ胸ヲ後ニ屈ス 三 呼吸ヲ調整ス 四 姿勢ヲ正ス	一 脚ニテ行フコト 二 膝ニ當テタルヲ行フコト 三 足ニ平行ニ約長開ク可トス 四 屈膝度ハ適宜定ムルコト

(其ノ二)

目的	疑ヲ解ク
身體各部ノ關節並ニ筋肉ヲ修練シテ	

之部		之部		之部		部位		
頸		肘		脚		運		
揉 打 廻 側 屈	揉 打	捻 屈	手 頸ノ振動	揉 打 振 屈 足 拳	踏 踵	動		
捻 叩 旋 轉 伸	捻 叩	轉 伸	手ノ力ヲ抜キ振動ス	捻 叩 動 伸 踏 踵				
一 手ニテ頸部ヲ揉ム 一 手ニテ頸部ヲ輕ク叩ク 一 頭ヲ前後ニ屈ス 一 頭ヲ左右ニ屈ス 一 頭ヲ側ニ轉ス 一 頭ヲ廻ス	一 指腹ヲ腕ノ部分ヲ圧シツツ揉ム 一 指ヲ腕ノ部分ヲ輕ク叩ク 一 腕ヲ前後ニ屈ス 一 腕ヲ左右ニ屈ス 一 腕ヲ側ニ轉ス 一 腕ヲ廻ス	一 腕ヲ屈伸ス 一 掌ヲ下ニ向テ腕ノ前拳ヲ他ノ手ニテ肘關節ノ近カラ握リ腕ヲ捻轉ス 一 腕ヲ前後ニ屈伸ス 一 腕ヲ握リ伸スルモ可 一 動作ハ緩徐ニ行フコト	一 手ノ力ヲ抜キ振動ス 一 手ヲ握リ伸スルモ可 一 動作ハ緩徐ニ行フコト	一 疑リタル部分ヲ手ニテ輕ク叩ク 一 疑リス痛ミタル部分ヲ揉ム 一 指ヲ個々ニ同時ニ屈伸ス 一 手ヲ握リ伸スルモ可 一 手ヲ握リ伸スルモ可 一 疑リタル部分ヲ手ニテ輕ク叩ク 一 疑リス痛ミタル部分ヲ揉ム	一 此脚ヲ僅カ拳ガ力ヲ抜キ膝ヲ屈伸シツツ振動ス 一 疑リタル部分ヲ手ニテ輕ク叩ク 一 疑リス痛ミタル部分ヲ揉ム 一 指ヲ個々ニ同時ニ屈伸ス 一 手ヲ握リ伸スルモ可 一 手ヲ握リ伸スルモ可 一 疑リタル部分ヲ手ニテ輕ク叩ク 一 疑リス痛ミタル部分ヲ揉ム	一 両足ヲ揃ヘ足尖ヲ固定シ拳踵ヲ踏ハス 一 足尖ヲ地ニ離サズ足踵ヲ交シ屈伸ス 一 足踏ヲ行フ 一 手ヲ膝ニ當テ膝ヲ屈伸ス 一 屈膝拳股ヲ行フ 一 腰掛ス踵踏等樂々行フ 一 打叩揉捻ハ適宜併用スルコト	一 兩足ヲ揃ヘ足尖ヲ固定シ拳踵ヲ踏ハス 一 足尖ヲ地ニ離サズ足踵ヲ交シ屈伸ス 一 足踏ヲ行フ 一 手ヲ膝ニ當テ膝ヲ屈伸ス 一 屈膝拳股ヲ行フ 一 腰掛ス踵踏等樂々行フ 一 打叩揉捻ハ適宜併用スルコト	一 扁足矯正ニ行フ可トス 一 適宜駢歩足踏ヲ行フコト 一 屈膝拳股ノ要領ニテ此脚ヲ連續ニ屈伸ス 一 両手ヲ膝上ニ十分股ヲ引上テ
						注 意		

操	腰 之 部					肩			
	廻	側	後	前	側	揉	打	廻	
打	廻	側	後	前	側	揉	打	廻	
捻	旋	轉	屈	屈	屈	捻	叩	旋	
一 指ヲ腰ニ當テ脊柱ノ兩側ノ筋ヲ揉ム	一 手ヲ下ケテ右ニテ体ヲ彈カシテ屈ス	一 手ヲ後ヨリ腰ニ當テ体ヲ後ニ反ラス	一 手ヲ前ヨリ上ニ拳ケテ体ヲ後ニ反ラス	一 肩ヲ左右ニ輕ク振廻シツテ體ヲ轉ス	一 肘ヲ左ニ屈シテ右ニ振廻シツテ體ヲ轉ス	一 手ヲ腰ニ當テ體ヲ左右ニ屈ケ、 ニ手ヲ摺上ケテ體ヲ左右ニ屈ケ	一 手ヲ摺上ケテ體ヲ左右ニ屈ケ ニ片手ヲ側ヨリ上ニ拳ケテ體ヲ左右ニ屈ケ	一 手ヲ摺上ケテ體ヲ左右ニ屈ケ ニ片手ヲ側ヨリ上ニ拳ケテ體ヲ左右ニ屈ケ	一 肩ヲ上下ス 一 肩ヲ前又ハ後ヨリ廻ス 一 右(左)手ヲ左(右)肩ヲ叩ク 一 右(左)手ヲ左(右)肩ヲ揉ム
一 シテ行フコト	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯	一 脚ヲ打叩揉捻ト關聯

三 實施上ノ注意

1. 其ノ一ハ作業ノ前後ニ於ケル準備及調整運動トシテ全運動ヲ配列ノ順序ニ從ヒ實施スルヲ建前トス
2. 其ノ二ハ疲労甚ダシキ部位ノ運動ヲ適宜選擇シテ休憩時特ニ手待時間ヲ利用シテ之ヲ實施スルコト
3. 各運動ノ強度回数等ノ作業ノ内容ノ疲労ノ程度ニ應ジ適切ナラシムルコト
4. 体操ハ集團的ニ行フ外所有機會ヲ利用シテ各自ノ職場ニ於テ努メテ自發的ニ實施スルコト

丙

施行 昭和十九年三月廿四日

管区第一〇七號

案起

昭和十九年二月六日

主任

局長

課長

事務官

合議局號及受送月									主管局號及付日
第	第	第	第	第	第	第	第	第	第
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

規格 115

C-0030



日	第
送受	送受
月 月	月 月
日 日	日 日

撰記ノ仔
 園以別紙
 海内議決
 定相成候
 處今般

文印布了り
 依頼越有之
 候趣船付
 御了知

相成度候

別紙添付



別紙(第1号)

新規中等學校卒業者ノ勤勞動員繼續ニ關スル措置要綱

(昭和一九一二年) 閣議決定

第一方針

昔烈ナル戦局下軍需生産ノ最大能率ヲ發揮スベキ國家要請ニ即應シ明正
三月中等學校ヲ卒業スベキ者ノ内特別ノ事情アル者ヲ除キ卒業後モ學徒
條ル其分ヲ保有シテ引繼キ勤勞ヲ繼續セシムルニトシ以テ其ノ修得セ
ル熟練技能ヲ活用スルト共ニ學徒勤勞ノ長所ヲ發揮シテ生産現場ニ於テ
ル能率ノ一時的低下ヲ防止セントス

第二發債

一 明年三月中等學校ヲ卒業スベキ者ニシテ左ニ該當スル者以外ノ者ヲシ
テ中等學校ノ附設課程ニ進學セシメ引續キ學徒ノ儘工場事業場ニ於テ
勤勞ヲ繼續セシムル如ク措置ス

- (1) 上級學校入學者
- (2) 陸海軍(學校)ニ入隊(入學)スル者
- (3) 工業學校、農業學校又ハ水産學校卒業者ニシテ工業又ハ採掘水産業

ニ從事スル者

- (4) 國民學校令施行規則第九條ニ依ル助教ト爲ル者
 - (5) 船員ト爲ル者
 - (6) 船舶規則第二條第一項第三號ニ定ムル學校又ハ講習所ニ入學又ハ
入所スル者
 - (7) 外地又ハ外國ニ就職決定セル者
 - (8) 女子ニシテ家庭生活ノ根柢タル者
 - (9) 戰時農業者ヲシムルヲ必キト認ムル者
 - (10) 其ノ他特別ノ事由ニヨリ地方長官ニ於テ除外スルヲ適當ト認ムル者
- ニ右ニ依リ學徒勤勞ヲ繼續スベキ者ヲ進學セシムル爲中高等學校ニ修業年
限一年ノ左ノ附設課程ヲ設置セシムル如ク措置ス
- (1) 中等學校實科
 - (2) 高等女學校專攻科
 - (3) 實業學校專攻科

本措置ニ依ル學徒ハ現在出勤中ノ工場事業場ニ於テ勤勞ヲ繼續セシムルヲ達前トスルモ動員學徒ノ適正配置ヲ圖ル爲必要ナル場合ハ配置轉換ヲ考慮スルモイトス

附設課程ニ進學シ學徒勤勞ヲ爲ス者ニ對スル報償並進學ハ專門學校學徒ノ取扱ニ準スルモイトシ右並本報償ノ外ニ授業料其他ノ教育費ニ充テシムル爲一定基準額ニシテ特別報償ヲ支給セシムルモノトス

附設課程在學者終了後工場事業場ニ就職セシムル場合ハ在學中ノ出勤期間ハ之ヲ勤務年限ニ通算スル外工場事業場ニ於テ之方優遇ニ付特ニ考慮セシムルモノトス

動員學徒ノ勤勞義務ト併行シ學徒ノ教育訓練、保健衛生、思想指導等ニ付テハ特ニ必要ナル方法ヲ講ズルモノトス

本措置ノ實施に伴ヒ中央及地方ニ於ケル學徒動員事務機構ヲ整備シ之ガ圓滑ナル運営ヲ期スルモノトス

附設課程設置ニ關スル必要經費其他本措置ノ實施ニ付テハ政府ニ於テ必要ナル豫算的措置ヲ考慮スルモノトス

備考

中等學校卒業生者ニシテ上級學校ニ進學シタル者ニ付テハ生徒ノ事情及勸業シ明年六月迄ハ上級學校進學ノ途現在ノ作業地ニ於テ學徒勤勞ヲ爲サシメ得ルモノトス

本年十二月卒業學校卒業確定者ニ付テハ正規ノ修業年限ニ復セシムル其ノ卒業時期ヲ明年三月ニ延期スルコトトシ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

右ニ該當スルモノノ内學校卒業若使用制限令第一條六ヨリ厚生大臣ノ指定セル學校ニ於テ指定學科ヲ卒業セバキ者ニ付テハ就職先内定セル者モ原則トシテ就職先内定ノ途現在ノ作業地ニ於テ學徒勤勞ヲ爲サシムルモノトス

丙

情氏十九号

施行

昭和十一年四月廿四日

施行

案起 昭和十一年一月十九日

主任



管理局長

事務官



課長



案

局長



合 議 局 號 及 受 送 月									主 管 局 號 及 付 日 月	
第 一 號	第 二 號	第 三 號	第 四 號	第 五 號	第 六 號	第 七 號	第 八 號	第 九 號	第 一 號	第 二 號
送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
動員時地等関係件	理科系大等車同接学徒働務	航校	文校局長	文校局長	工局長	工局長	工局長	工局長		

規格 115

C-0030

日	第
送	號
月	送
月	月
日	日
日	日

標記 伊東 國 今 般 未 部 有 此 未 別 紙 送 行 候
 文 部 為 名 軍 務 三 番 奉 見 通
 標 相 成 候 趣 付 候 參 考 送 送 行 候
 別 紙 添 付 候 趣

C-0030

0078

第一號

昭和二十年一月十五日

文部省 事務局長

厚生省 勸業局長

軍需省 總動員局長

各行政協同會長
各地地方長官
理科系大高等專門學校校長
各軍需監理部長
各地方鐵山監理局長

理科系大高等專門學校校長、勸業勸業員時期等

附スル件

標記ノ件ニ關シテハ今後ノ政局及生産事情等ニ應ジ特別ノ措置ヲ必要ト
スルニ至ラザル限リ概ネ左記方針ニ依リ動員ヲ實施致スコトト相成タル
ニ付テハ夫々之ニ應ズル準備ヲ整ヘ置カルル様萬遺憾ナキヲ期セラレ度
此致及類牒

追而本件ニ付テハ陸軍省及海軍省ニ於テ諒承濟ニ付為念

一、大體ニシテスル事項

ノ第一、二年學徒ノ應得の職員ハ本年一月早々ニ之ヲ行フコトトシ四月
以降ニ及ビ四年出職ノ予定ナルモノ一應本年三月末ヲ終期トシテ職員
下全ヲ爲スコト

2 現ニ出職中ノ第三、四年學徒ハ本年七月初ヨリ出職先ヲ引續ケ請職セ
シメ卒業前三ヶ月ヲ以テ教育ノ設施ニ充ツルコト

右教育期間ニ於テハ實ニ重要なナル方法ニ依リ大學教育ノ最後の仕
上ヲ實施スルコト

3 本年ニ限り理科系最高學徒ノ分數的職員ハ之ヲ行ハザルコト
ニ高等專門學校ニシテスル事項

ノ本年四月高等專門學校ニ入學スベキ學徒ハ昨年十二月一日臨時決定
ノ「新選中等學校卒業生ノ勤勞職員」ニシテスル「江要」ニ備考一

ニ依リ生産ノ事情ヲ勘案シ本年六月迄ハ現在出職先ニ於テ勤勞ヲ繼
續スルコトトナリ居ルモ此等「江要」中「畢業生」等專門學校ニ付テハ

農業技術ノ待遇ニ係リ四月初ヨリ第一、二年ノ學徒ヲ開始スルコト

2 第一、二年學徒ニシテ今般ノ流産ニ係リ緊急職員ニ出職シタル者ハ本
年三月末現職ヲ引續ケ四月初メ第二、三年學徒トシテ於テ第三、
四年ノ學徒ヲ開始シ六月末迄在職シ七月初ヨリ再び應得のニ出職セ
シムルコト

3 第一、二年學徒ニシテ今般ノ流産ニ係リ緊急職員ニ出職セザリシ者ハ
右ノ緊急職員引續後ノ補充トシテ本年四月初第二、三年學徒トトモ
ニ出職シ爾後引續キ勤勞ヲ繼續セシムルコト

4 現ニ出職中ノ第二、三年學徒ハ本年四月初第三、四年學徒モ現在ノ
出職先ニ於テ勤勞ヲ繼續セシメ本年七月初ヨリ出職先ヲ引續ケ請職セ

シメ卒業前三ヶ月ヲ以テ教育ノ設施ニ充ツルコト

右教育期間ニ於テハ實ニ重要なナル方法ニ依リ專門教育ノ最後の仕
上ヲ實施スルコト

5 本年ニ限り理科系最高學徒ノ分數的職員ハ之ヲ行ハザルコト
6 農業技術專門學校第二、三年學徒ニシテ今般ノ流産ニ係リ緊急職員ニ
出職シタル者ハ本年三月末ニ引續ケ請職セシムルコト

丙

月 送 受 及 號 局 議 合									日 月 付 受 及 號 局 管 主	
第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	昭 和 年 五 月 二 日	管 理 第 三 一 七 號
送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受	送 受		
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日		
<p>標記ノ件別紙ノ通以山長會議決定相次修條</p> <p>工場ニ於ケル此ノ徒勤勞刷新改善ニ関スル件</p> <p>朝鮮學務局長 出張所經由</p> <p>文教局長</p> <p>案</p> <p>局長</p>									<p>起案</p> <p>昭和二十年五月五日</p> <p>主任</p>	<p>施行</p> <p>昭和二十年五月五日</p> <p>江上</p>

規格 B5

C-0030

0081

日	
第	第
號	號
送受	送受
月	月
日	日

了知相致度

別紙添付

印

C-0030

0082



內務省照會第五

昭和二十年四月二十六日

文 書



管理局長殿

工場ニ於ケル學徒勤勞刷新改善ニ關スル件

豫記ノ件四月五日大官會議決定相成内閣書記官長ヨリ趣意有之無儀
御了知相成度

工場ニ於ケル學徒勤勞刷新改善ニ關スル件

ニク四五
次官會議決定

第一 趣 旨
現下生産勤勞上學徒ノ占ムル地位ト國トノ將來ニ關シ其ノ背負フ使命ト
ニ鑑ミ此際勤勞學徒ノ指導管理ニ關シ左ニ依リ刷新改善ヲ實施スルモノ
トス

第二 措 置

- 一 學校ト工場トノ特定連繫關係ノ設定
 - ノ 學校ト配置工場（事業場ヲ含ム、以下同ジ）トノ關係ノ錯綜ガ學徒勤勞上ノ諸缺陷ノ主因ヲ爲セル現況ニ鑑ミ左ニ依リ學徒ノ配置轉機ヲ實施シ學校ト工場トノ連繫ヲ極力單純特定化スルモノトス
 - (イ) 能フ限り一學徒ハ一工場ト特定連繫セシムルコト
 - (ロ) 連繫工場ノ選定ニ當リテハ能フ限り學徒ノ近距離ニシテ且作業ガ學徒ノ年齢、性別、修得（學科等ニ適當スルモノヲ選ブコト
 - (ハ) 理科系ノ大學、專門學校等ニ在リテハ專攻學科ヲ單位トシテ連繫セシムルコトヲ得ルコト

(二) 學徒ノ通勤ノ關係上事情ニ依リ轉校又ハ他學徒ヘノ委託ヲ認ムルコト

2 學校ト工場トノ連繫調整ハ左ノ方法ニ依リ實施スルモノトス

(1) 中等學校及國民學校高等科ノ場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ當

該都道府縣内ニ在ル工場ニ付學校側及工場側ノ意見ヲ斟酌シツツ

逐次特定連繫關係ヲ設立シ尙學校側ニ餘裕アル場合ハ原則トシテ

同一地方行政協議會地域内ニ於テ地方行政協議會長ノ調整斡旋ニ

依リ隣接都道府縣等ノ工場ト特定連繫關係ヲ設定スルコト

大學、高等專門學校及教員養成諸學校ノ場合ニ在リテハ原則トシ

テ同一協議會地域内ニ在ル學校及工場ニ付學校側及工場側ノ意見

ヲ斟酌シツツ文部省ニ於テ逐次特定連繫關係ヲ設定スルコト

二 勤勞管理

勤勞管理ニ付テハ學徒ニ對シ充分ノ理解ヲ以テ其ノ特性ヲ活シツツ特

ニ左ノ諸點ニ關シ刷新改善ヲ圖ルモノトス

1 派遣教職員ハ學徒ノ動員期間中ヲ通ジ能フ限り交代セシメザルコ

2 工場ノ幹部ハ絶エズ派遣教職員ト緊密ナル接觸ヲ保チ學徒側ト要

望ヲ充分ニ聽取スルト共ニ學徒ニ對スル工場側ノ要望ハ可及的ニ教

職員ヲ通ジテ之ヲ爲ス様措置スルコト

3 工場ノ職員等ノ中適當ナル者アルトキハ實情ニ應ジ教職員ニ準ジ

學徒ノ指導ニ任ゼシムルコト

4 學徒ノ職場配置ハ集團配置ヲ原則トシ可能ナル限り責任ヲ以テ一

定ノ部署ノ生産ヲ擔當セシムル如ク措置スルコト

5 學徒ノ職場配置ニ付テハ單ナル雜役的作業ニ從事セシムル弊ニ墮

スルコトナク極力學徒ノ智能學力ヲ満足セシムル様配置スルト共ニ

年齢、性別、體力)ニ相應セザル作業ヲ課セザル様留意スルコト

6 學徒ヲ受入ルル工場ニ在リテハ特ニ工場内外ノ監督取締ヲ嚴ニス

ルト共ニ學徒及一般勞務者ヲシテ相互ニ融合セシムルコト

7 工場ニ於ケル健康管理ヲ徹底的ニ刷新シ學徒ヲシテ過勞、疾病ニ

陥ラシメザル様留意スルト共ニ特ニ女子學徒ノ保健衛生ニ考慮ヲ拂

三 勉學修養ノ指導

學徒ヲシテ勤勞動員中ト雖モ生産ヲ完ツツ努メテ勉學修養ヲ爲サシムル様左ノ如ク指導スルモノトス

ノ 手待時間又ハ豫定作業分擔量終了後ノ時間ヲ利用シ教育ヲ行ヒ讀書ヲ爲サシムル等ノ方法ニ依リ努メテ勉學修養スルヲ得シムルコト

2 狀況之ヲ許ス場合ハ學徒側ト工場側ト協議ノ上一定ノ登校日等ヲ設ケ得ルコト

3 戰時下ノ學徒トシテ修讀セシムベキ適當ナル參考書、教養圖書等ノ提供頒布ノ方途ヲ講スルコト

四 其ノ他

ノ 學校ト工場トノ特定連繫關係ハ受入態勢、操業ノ現況、其ノ他ノ實情ニ應ジ之ヲ變更又ハ中止スルコトアルベキコト

2 工場ト特定連繫關係アル學校ニ在リテモ必要アル場合ハ學徒ヲ機動的ニ他工場ノ業務、食糧生産、防空防衛、國防士健、輸送等ノ業

備考

務ニ從事セシムルコトアルベキコト

3 工場疎開ノ實施ニ即應シ能フ限り學校工場ノ實現ヲ促進スルコト右實施ニ當リテハ一般勤勞ノ配置調整ト照應シ動員學徒ノ當該學校工場ヘノ復歸ヲ行フコト

ノ 農業ニ關スル學徒勤勞ノ強化刷新ニ付テハ別途速カニ之ガ方途ヲ決定スルモノトス

2 學徒ハ必要ニ應ジ官公務配給業務等ニ對シテモ活用スルモノトス
3 學校ト工場トノ連繫調整ハ概ネ本要綱決定後三月以内ニ完了ノ目途ヲ以テ之ヲ行フコト

月送受及號局議合									日月付受及號局管主	
第	第	第	第	第	第	第	第	第	管長第〃八〃號 昭 和 五 月 一 日	
號	號	號	號	號	號	號	號	號		
送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	送受	案起 昭 和 二 〇 年 五 月 一 日 主任	
月	月	月	月	月	月	月	月	月		
日	日	日	日	日	日	日	日	日	施 行 昭 和 五 月 拾 日	
朝鮮學務局長 局長									管理局長 事務官	
朝鮮中等學校出身シテ内地上级学校ニ入學セルル地海道核農事業川遣要領ニ関ス件									政課長	
標記ノ件ニ關シテハ最モ貴府軍需事務所係官									案 局長	

規 格 11.5

丙

C-0030

0086

日	第
送	送
受	受
月	月
月	月
日	日
日	日

ヨリ連絡滑ノ苦ナル處今般文部者ヨリ依頼越ノ次

ナ有之本件ノ南ニ流分御協力相煩度及御依頼

案ノ二

局長

文部省此等運動本部一部長宛

C-0030

0087

標記ノ件ト關シ四月三十日附勅專ニ一七号ヲ以テ締依ヲ認

要望到ニ道ナク通リ

選了承取候

尚

甚良ニ南係官協議ノ際、世ノ校トシテ付テ關シ

有概ナリ

才等徒初等ノ人素ヲ奉テ推選ノ校取取者ノ推選

為世校中心ノ隊

再編才軍軍アリテ、同ニテ、特ニ締考

七月以降ニ於

此野守校取取者ノ取選等

慮相燭度候

大日本帝國政府

新上ノ國定規格第(一)ニニニ類



勅專二一七號

昭和二十年四月三十日

文部省學徒動員本部第一部



内務省管理局長 殿

管理局長

民政課長

事務官

高等専門學校入學者ノ勤勞動員ニ關スル件

外地中等學校卒業者ノ内地高等専門學校ヘノ入學ニ關シテハ種々御配意相煩弊シ無滞終了致シタル處本年ノ高等専門學校入學者ハ昭和十九年十二月一日閣議決定相成タル「新規中等學校卒業者ノ勤勞動員繼續ニ關スル措置要綱」ニ基キ中等學校ニ於テ勤勞動員ニ出動中ノ場合ハ高等専門學校入學者ト雖モ農林、水産關係専門學校入學者ヲ除キ同一工場、事業場等ニ於テ六月末迄勤勞動員繼續シ農林、水産専門學校入學者ニ付

文部省

テハ本年四月ヨリ高等専門學校ニ登校セシメタル上勤勞動員ニ出動スルコトト相成居ルモ外地特ニ朝鮮ヨリ内地高等専門學校ヘノ入學者ニ付テハ團體輸送ヲ以テ渡航セシメタル上農林、水産關係専門學校入學者ヲ除キ他ハ全員之ヲ十二月上旬迄（理）理工科系専門學校ニアリテハ六月末迄トス）北海道援農作業ニ動員スル計畫ナルニ付十分御協力相煩度此段及御依頼

追租細部ニ關シテハ關係官ニ連絡協議シアルニ付御了承相成度

管民第289号
20.5.4.
内務省管理局

供覽

C-0030

0029

大日本帝國政府

朝鮮中等學校出身者ニシテ内地高級學校ニ
 入学セルモノ北海道(後農事講習派遣要領)打合
 管理局長 民政課長
 一日時 昭和十一年四月十五日 午後二時
 二場付 文部省總務局長 應接室
 三出席者 監理課長 青川事務官 春山理事官
 内務省 石川事務官
 農商省
 朝鮮總督府 矢倉事務官 他各本理事官
 北海道庁
 朝鮮總督府 理事官以下
 四打合事項
 別紙 要領案ニ付協議在り(通打合ニシ)

(國定規格B5(21×25.7))

大日本帝國政府

1. 學校ト結ビ附テ同ル為 七月中旬ニ於テ學校ヲ中心トシ
 多路ニ再編ヲ考慮スルヲ
 2. 右ノ為 勸告ニ止ルニ學校ノ生徒ニ之ヲニシテ學校ニ
 或ニ当該學校ノ補充ヲ圖リ サリトモ一學校ニ
 付一教官ヲ附シ得ル程度ノ大キキニスルヲ
 3. 派遣中ノ指導ヲ要領ヲ明カニスルヲ
 (學校ノ準備等)
 4. 輸送方法ニ付テ 朝鮮内ニ總督府ニ一任 連結船以
 及内地輸送ニ文部省ヲ運通者ニ交情ニ
 5. 在リ打合内容ノ 朝鮮總督府へ連結ニ出張シ
 了之ヲ行フ
 (参考)
 農事講習専門學校 四月一日開校ナリ 乙武通
 知ヲ付シテ下ラサル 趣ナクテ以テ再ニ措置スルキヲ甲大ニシ

(國定規格B5(21×25.7))

大日本帝國政府

2	北海道農學校 概造	在函館	（國定規格 52×30 延坪）
如キ	ヲ	モ	概造
ハ	中等學校	農學校	（約1000）
カ	ヲ	中心	其他
ニ	高等		
シ	北海道	高等	新規
ト	北海道	高等	新規
ニ	東北方	師範	科
ニ	東京	師範	大学
ハ	前年	中等	技術
カ	中等	技術	科
ハ	中等	技術	科



朝鮮中等學校出身者ニシテ内地高級學校ニ入學セルモノ、北海道援農事業派遣要領(案)

一 趣旨

朝鮮内中等學校出身者ニシテ本年度内地高級學校ニ入學セル者ヲ北海道ニ派遣シ、同地ニ於ケル食糧増産作業ニ投身セシメテ國民食糧ノ國內自給確保ノ絕對的要請ニ添ハシムルト共ニ兼テ内地農村ニ於ケル質樸堅實ナル醇風ヲ體認セシメ其ノ訓育指導ヲ全カラシメントス

二 派遣要員

朝鮮内中等學校卒業者ニシテ本年度

内地、大學豫科、高等專門學校(教員養成諸學校)ヲ含ミ、農業關係專門學校ヲ除ク、入學者約七〇〇名

三 派遣期間

自昭和二十年五月中旬至同年十月中旬 約七ヶ月間

四 輸送方法

一 集結場所
清津又ハ釜山トスルコト
二 清津ノ場合、第一集結場所ヲ清津、第二集結場所ヲ新島トシ、釜山ノ場合ハ第一集結場所ヲ釜山、第二集結場所ヲ下関、第三集結場所ヲ東京トス

2. 集結日時

五月廿日頃、豫定

3. 集結方法

關係上級學校及朝鮮總督府ニ於テ
第一集結場所ニ集結セシムル様本人
ニ連絡スルコト

4. 輸送方法

第一集結場所ヨリ北海道迄ハ團體輸送ニ
依ルコト

此場合第一集結所ヨリ第二集結場所
(釜山)場合ハ第三集結所(青森)迄ハ
朝鮮總督府會及朝鮮總督府ニ於テ
輸送指導ヲ為シ第二集結所(又ハ第三集結
所)ヨリ北海道迄交通部省及北海道廳ニ

於テ輸送指導ニ當ルコト

5. 國庫派遣教職員及交通部派遣官ハ

第一集結所又ハ第二集結所ニ出張
學徒、輸送指導ヲ継グコト

6. 團體輸送中、食事を付テハ、東亞交通
公社、於テ斡旋セシムル様手配スルコト

六 隊編成

派遣學徒、隊編成ハ入學學校種類別
ニ應ジテ高等學校、大學豫科班、專門
學校班及教員養成諸學校班等トシ
凡ソ五十名程度、班組織ニ編成スルコト

七 派遣教職員

學徒、入學シタル學校職員中ヨリ本省於テ
代表學校ヨリ學徒五〇名ニ一名ヲ基準ト
シテ派遣放職員ヲ選拔シ附添ハシム
ルモノトシ派遣放職員ヲ供出セシムル學
校ヲ文部省ヨリ指定スルコト

八 作業

農耕 土地改良其他ノ食糧増産

九 宿泊

合宿設備アル場合ハ之ヲ利用スルモノトシ
其他ハ農家ニ分宿スルモノトス

十 作業用具其他 道具

派遣學徒、作業ニ必要ナル用具其他
道具ハ配屬先ニ於テ準備スルモノトス

十一 服裝並攜帶品

一 服裝

(一) 派遣放職員ニ作業ニ便ナル服裝
(二) 派遣學徒 作業服又ハ放職服、正帽、
巻脚絆靴
尚可及的軍靴地下足袋ヲ用意スル
コト

二 攜帶品

雨具 水筒 毛氈又ハ外套 寢卷
敷布 冬期用下着類(着替ヲ要ス)
腹巻 冬靴下 洗面用具 日用品
其他

十二 教育訓練

作業地ニ於ケル教育訓練ハ派遣放官ニ於テ

之ヲ實施シ北海道廳及關係機關之
協力スルモノトス

十三 經費

第一集結場所ヨリ北海道迄ノ團體輸送
旅費其他作業ニ必要ナル實費ハ
北海道曲辰業會ニ於テ負担スルコト
但シ本人居住地ヨリ第一集結場所迄ノ
旅費ハ各自辨トス

十四 其他派遣上ノ注意

- 1 身體検査ヲ嚴密ニ行フコト
- 2 豫防注射又内服ワクチン(チブス
赤痢)服用コト

供覽

大日本帝國政府

管理局長了 民政課長了 事務官

昭和二十年五月二十日

朝鮮總督府學務局長

内務省管理局長宛

電報譯文

五月四日附貴電符承 男女中等學校(公私立及男女

師範學校ヲ含ム)ノ臨時動員一日平均數ハ年間一〇

〇日トシテ算出、國民學校ハ年間動員日數ヲ三〇日

トシテ算出シタルモノニ付仰了知相成度

(規定規格5(2)X57種)

C-0030

0096

電 報

在在電報局

分 時 寄附金 看成届 信 交

ヘイキヌスウハネンカン一〇〇ヒトシテサツシツ、コクミンガ
ウハネンカント、ウインピスウヲミ〇ヒトシケサテサンシツシタルモノ
ニツキニコカイニチアニ

〇四、〇五

以印局番五元 院 信 通 2274第

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0

電 2256

時 分 寄附金 看成届 信 交

カンミンニ四三「四」コアク四「七」キトタメシ、ヨナチオ「コウ」シリツ
オヨビ、ダレンジ、ヨシマヘ「フ」クム「ン」リンジ、ド「ウ」イン「ヒ

緊急電報

ニアリヨ
タイムシヨウワカスミガ「セ」キ「ン」ノ「一」
「一」三九、テウセ「ン」ウ「ト」ク「フ」四「五」コ「四」〇「一」五
×××五〇四七



以印局番五元 院 信 通 2274第



電報

往谷通電務局

付送

時

分

寄附送

着成届

信交

コ四ノ四

コ

ヘイキヌスウハネンカン一〇〇ヒトシテサツシツ、コクミンガ
ウハネンカント、ウインヒスウヲ三〇ヒトシテサテサンシツシタルモ
ニツキニコカイニチアニ

以印局番拾五・九

院信

以印局番拾五・九

電

2256

ニアリヨ

ナイルムシヨウワカスミガセキニ
テウセ
四五
コ四

配
送
不
明
ナ
ス
申
下
テ

等届送

送成届

信交

四コ
アク
四
シ
キ
ト
タ
メ
シ
白
六
チ
オ
ハ
コ
ウ
シ
リ
シ
ン
ウ
ア
ン
ニ
ト

以印局番拾五・九

院信

以印局番拾五・九

C-0030

0098